

笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡

県営圃場整備事業（先進技術導入モデル事業 亀田郷地区）に伴う平成7年度・平成8年度発掘調査報告書

1997

新潟市教育委員会

例 言

- 1 本書は、新潟県から新潟市が委託を受け、新潟市教育委員会が調査主体となって平成7(1995)年度と平成8(1996)年度の2カ年にわたって実施した笹山前遺跡(新潟市遺跡番号7)、神明社裏遺跡(新潟市遺跡番号19)及び城山遺跡(新潟市遺跡番号28)発掘調査の報告書である。
- 2 各遺跡の所在地、推定面積及び今回の調査面積は巻末の抄録に記した。
- 3 調査記録及び出土遺物は全て新潟市教育委員会が埋蔵文化財センター(新潟市太郎代2554番地)に保管している。
- 4 出土遺物に対する注記は笹山前遺跡を「SY」、神明社裏遺跡を「シン」、城山遺跡を「JY」とし、以下出土位置や出土層位、取上番号等を記した。
- 5 本書の執筆・編集は廣野耕造(新潟市埋蔵文化財センター主事)が担当し、写真は廣野と古越永子(新潟市埋蔵文化財センター主事)が撮影した。また、全般に埋蔵文化財センター職員の協力を得た。
- 6 発掘調査の実施及び本書の作成に当たり、下記の方々をはじめとして多くの方々から指導・援助をいただいた。記して感謝申し上げます。

相沢 央 甘粕 健 荒川隆史 石川智紀 石原正敏 小熊博史 小黒智久 小野 昭 春日真実 金子拓男
川村浩司 小池邦明 小林昌二 斎田美穂子 坂井秀弥 菅沼 亘 鈴木 暁 関 雅之 関根慎二 高橋 保
高橋正志 高濱信行 滝沢規朗 田中耕作 田辺早苗 谷藤保彦 寺崎裕助 立木宏明 鶴巻康志 戸根与八郎
永嶋正春 橋本博文 福田仁史 藤塚 明 本間桂吉 前山精明 増子正三 渡邊裕之 渡邊朋和 渡邊ますみ
新潟県新潟農地事務所 亀田郷土地改良区 株式会社オリス 山武考古学研究所 株式会社新潟藤田組
三浦工業株式会社

(敬称略)

凡 例

- 1 本書に掲載した平面図等の方位は真北を基準としている。なお、新潟市付近では磁北は真北から約7度西偏している。
- 2 遺構の種別は次の略号で示した。
掘立柱建物：SB 井戸：SE 土坑：SK 溝：SD ピット：P 性格不明遺構：SX
- 3 本書に掲載した遺物には、実測図・写真・観察表とも同番号を付し、本文中では原則としてそれを用いた。
- 4 土器実測図の断面は原則として白抜とし、須恵器については黒塗りとした。
- 5 土器の口縁部、底部のいずれもが1/3以下しか残存していない場合、復元実測の精度が著しく落ちていると判断し、実測図の中心線付近を一部切ってその旨示した。

目 次

1 調査の経過・・・・・・・・・・	1	3 笹山前遺跡の調査・・・・・・・・	2	(2) 調査結果	
(1) 調査に至る経緯		(1) 調査方法		6 おわりに・・・・・・・・・・	4
(2) 調査期間と体制		(2) 調査結果		図1～31・・・・・・・・・・	6～31
(3) 調査経費について		4 神明社裏遺跡の調査・・・・・・・・	3	写真図版1～11・・・・・・・・	32～42
2 遺跡の立地と周辺の環境・・・	2	(1) 調査方法			
(1) 笹山前遺跡		(2) 調査結果			
(2) 神明社裏遺跡		5 城山遺跡の調査・・・・・・・・・・	4		
(3) 城山遺跡		(1) 調査方法			

1 調査の経過

(1) 調査に至る経緯

県営圃場整備事業（先進技術導入モデル事業 亀田郷地区）に伴い、平成6（1994）・7年度に新潟市教育委員会が試掘・確認調査を実施した。その成果に基づいて新潟県新潟土木事務所と現地の遺跡保護について協議を行った結果、笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡では工事に伴う現状変更が避けられないこととなったため、工事着手前に本調査を実施し、記録を保存することとなった。

(2) 調査期間と体制

平成7年度は笹山前遺跡及び神明社裏遺跡のうち農道にかかる工事を行う部分について記録保存のための発掘調査を行った。本体事業を年度末までに終了しなければならないため、やむを得ず厳冬期の調査となった。降雪を避けるため、原因者の提案により笹山前遺跡の調査範囲には可動式のテントを設置したが、中が暗くなるため土層の観察が困難になるなど、総体的にあまり効果が上がらなかった。調査作業員は地元在住者を中心として延べ941人を雇用した。また、調査員として横越村教育委員会職員1名、民間発掘調査会社（山武考古学研究所）社員1名の派遣を受けた。

翌8年度は笹山前遺跡の南端部分が畑から水田に切り替わるため大幅に切り下げられる部分について、また城山遺跡については遺跡の北端付近に設置される農道部分について調査を行った。

出土品等の整理作業は平成7年度の現地調査時から埋蔵文化財センターで室内作業員を雇用して実施し、平成8年度も引き続き継続することにより、3遺跡分の報告書を8年度に刊行することとした。

(3) 調査経費について

以上の調査及び整理作業にかかる経費は、全体の75%を原因者としての新潟県が負担し、新潟市教育委員会と委託契約を締結して発掘調査を行った。農家負担分の25%については文化財保護部局が負担し、その割合は国庫補助50%（調査経費中12.5%）、県補助25%（調査経費中6.25%）、新潟市が一般歳出により25%（調査全体経費中6.25%）となった。額面は以下のとおりである。

平成7年度 笹山前遺跡・神明社裏遺跡発掘調査経費

費目	額	備考
共済費	62,795	労災保険・雇用保険
賃金	5,928,484	発掘現場作業員延べ941人
報償費	408,000	調査員報償費
旅費	1,028,110	職員日当43,070円・外部調査員旅費975,140円ほか
需用費	633,241	
消耗品費	(490,615)	発掘用具・整理用具ほか
燃料費	(26,305)	灯油ほか
印刷製本費	(116,321)	フィルム現像等
役務費	4,800	郵送料
使用料及び賃借料	9,831,616	仮設ビニールハウス一式7,063,224円・仮設組立ハウス等一式2,768,392円
合計	17,897,046	

平成8年度 笹山前遺跡・城山遺跡発掘調査経費

費目	額	備考
共済費	786,452	労災保険・雇用保険・健康保険・厚生年金・児童手当拠出金
賃金	20,119,748	発掘現場作業員延べ2,192人・整理作業員延べ530.5人
旅費	101,780	職員日当ほか
需用費	1,913,284	
消耗品費	(1,040,029)	発掘用具・整理用具ほか
燃料費	(84,020)	灯油ほか
印刷製本費	(789,235)	フィルム現像等
役務費	9,600	郵送料
使用料及び賃借料	4,646,603	仮設ハウス・ベルトコンベア等
合計	27,577,467	

2 遺跡の立地と周辺環境

(1) 笹山前遺跡

笹山前遺跡は新潟市の南部に隣接する亀田町中心部から東へ約3.5km地点の蔵岡字笹山前に立地し、笹山の集落を中心に、南側を中心として微高地上に大きな広がりを見せる。この微高地は、亀田砂丘前列（阿賀野川以東新砂丘1-2列に対比される）の残丘状をなす小砂丘に由来するものと考えられる。周辺の沖積地からの比高差は、最高で2~3mを測る。遺跡周辺の畑などから縄文土器、古墳時代の土器などが採集され、昭和25（1950）年ころから遺跡であることが知られていた。

調査前の状態は畑地で、近世以降のものと思われる盛土が施されているほかは、良好な状態を保っていた。平成7年度に実施した範囲確認調査では包含層が4層認められ（図2のⅢ~Ⅵ層）、うちⅢ・Ⅳ層は平安時代の遺物を含み、Ⅴ・Ⅵ層は縄文時代から平安時代までの遺物を含む。遺構確認面はⅣ層上面（主として平安時代）及びⅦ層正面（縄文時代~古墳時代）の2面が認められる。全体としては、縄文時代から平安時代にかけて断続的に営まれた集落跡の一部と推定された。砂丘基盤層の上に黒色砂が乗り、その上に厚い粘土の層、そして一番上に表土及び耕作土が堆積している。こうした様相は北側に隣接する神明社裏遺跡でもほぼ同様である。

今回の調査範囲では、最も高いところで標高約2.5mを測り、そこから南東及び南西方向に低く落ち込む。笹山の集落はここよりさらに1mほど高いことからみて、遺跡全体が小さな丘のような地形であったと考えられる。

(2) 神明社裏遺跡

神明社裏遺跡は新潟市笹山前字宮浦89ほかに立地し、笹山前遺跡の北西側に近接する。小砂丘上の立地であることや、土層の堆積状態なども笹山前遺跡とほぼ同様である（図2）。ただし遺構確認面（Ⅳ層上面・Ⅶ層上面）はいずれも平安時代のもので認められる。笹山前遺跡と違い、縄文や古墳などそれより古い時代・時期のものは発見されていない。今回の調査区は既存の道路部分ほかに相当し、上層は部分的に攪乱が散見されたが、全体の遺存状態は良好であった。

(3) 城山遺跡

城山遺跡は新潟市蔵岡字城山209ほかに広がる、亀田砂丘（阿賀野川以東の新砂丘1-2列に対比されるもの）の残丘状の小砂丘上に立地する。笹山前遺跡の北側約0.4kmにあたる。標高は約2mを測り、調査地の現況は水田である。

基本層序については、ほぼ笹山前遺跡及び神明社裏遺跡と同様の様相を示す（図29）。ただしⅠ・Ⅱ層にも中世の遺物（図31-29~31）がわずかに含まれる。その下に厚さ約50cmにわたって縄文時代の遺物包含層（Ⅴ・Ⅵ層）が存在しており、それを取り除くと基盤層（Ⅶ~Ⅷ層）に到達する。Ⅶ層上面は主として縄文時代の遺構確認面だが、南から北に向かって急激に落ち込んでおり、調査予定面積350㎡のうち北側の約90㎡は激しい湧水のため調査不可能だった（図29）。

3 笹山前遺跡の調査

(1) 調査方法

調査区のグリッド設定は、最初に施工される農道のセンターラインを調査グリッドの3ラインとし、10mを大グリッドとしてその中を2mメッシュで25の小グリッドに分割した（図3・4）。包含層中の遺物取り上げは原則としてこの小グリッド単位で行った。なお、グリッド設定のための基準杭は、北西側優位とした。表土をバックホーで除去した後、Ⅲ層以下は遺物が包含されているので人力により掘り下げ、各層の上面ではジョレンがけによる遺構精査を行った。

(2) 調査結果

縄文時代（遺構：図5・6、遺物：図13・14・19・20） 明確に縄文時代のもので確認された遺構は少ない。SX4は礫石錘16個を1ヶ所に集積し埋納したと考えられる遺構で、この地での生業（漁労）のあり方を考える上で特筆される。SK108

からは後期中葉～末にかけての土器が比較的まとまって出土している。ただし図 13-8 は前期の爪形文を持つ土器であるが、包含層からの混入である可能性がある。SK185 は頁岩製の剥片（写真図版 4）と剥片製作に利用した可能性のある円礫を含む小規模な土坑である。また、赤色顔料（ベンガラか否かは未確認）が直径約 60 cm 程度の円内に散布されたうえに石製装飾品（図 20-20）、小型磨製石斧（図 20-21, 22）が検出された SX3（図 8）も注目される（写真図版 1）。

土器は包含層出土のものも含め整理箱 10 箱分に及び、新潟市内の遺跡からは初の出土となる前期前葉～中葉のものが定量見られる（図 14-24～27）。特に図 14-27 に代表される一群の土器は、東北地方の表館式土器に比定され、近隣では西蒲原郡巻町新谷遺跡に類例が多い。そのほかには中期初頭～前葉（図 14-28, 29）、中期後葉（図 14-30）、後期初頭～前葉（図 13-19, 20, 図 14-31 など）、後期末（図 13-12, 13 など）、そして晩期末（図 14-32 など）の長期間にわたってここが生活の場となっていたことを示す土器が出土している。なお、図 13-32 は大洞 B2 式の壺で、発見時は土器内に赤色顔料であるベンガラ（総重量は乾燥状態で 301.05g）が入っており、貯蔵用あるいは移動時の携帯用容器としての機能が想定される。

石器は石鏃、石匙が多い。前期のものと推定される尖頭器（図 19-15）、角柱状石器（図 19-14）のほか、紡錘状石器を含む異形石器（図 19-18, 19）もみられる。図 20-24 は磨製石斧の未製品であろう。

弥生時代 図示しないが天王山式土器の甕口縁部小片が数点出土している。

古墳時代（遺構：図 7～10、遺物：図 15～17, 20） 遺構の切り合い、遺物の編年的位置からみて、中期末～後期の時期幅がある。SK140 は浅く広大な土坑で、中期の甕などのほか、多くの高坏、器台などの祭祀にかかわる器種が出土している。SI1 は 1 辺約 4m の隅丸方形を呈する竪穴住居で、床面から多数の土師器が出土している。また、覆土をふるいにかけての結果、滑石製の玉製品（小玉・白玉）が検出されている（図 20-58～88）。全体に小粒であり、中には小玉と区別しがたい個体も含まれる。後期初頭の遺物を柱穴の覆土中に含む SB4 に切られていることから、この竪穴住居は中期末に属すると推定される。SB2 及び 3 は南北方向の軸線が SB4 とほぼ並ぶ形で構築された掘立柱建物で、いずれも総柱式で、倉庫であった可能性がある。SK150 は土師器の椀と須恵器の坏蓋（図 17-41～45 が重ねあわされた状態で出土、ほか 46 が出土）が埋納された土坑で、墓坑と考えられる。この須恵器坏蓋は、近隣の阿賀野川中洲遺跡で採集されているものとはほぼ同時期のものと考えられ、中期後半から後期初頭のものと比定される。陶邑編年の TK47 型式併行であろう。なお、SK150 の覆土をふるいにかけてところ、多数の白玉が発見された（図 20-46～57）。被葬者の副葬品と推定される。

奈良・平安時代（遺構：図 11, 12、遺物：図 17, 18, 21） SE1 からは板材が井桁状に組み合わせられた状態で発見された。SX1 と 2 は焼土状の土が積み重なった土壇状の遺構で、掘り込みの失われた竪穴住居に伴うカマドと想定して調査したが、煙道などはまったく発見されなかった。SX2 からは土師器甕及び鍋が出土している（図 18-1）。SE3 は水溜部分に曲物を据えた井戸であり、それを囲むように 8 基の柱穴がある。覆屋を伴う井戸と考えられる。

その他、砥石が出土している（図 21）。

4 神明社裏遺跡の調査

(1) 調査方法

調査区でのグリッド設定については図 22 に概要を記した。グリッドラインの設定には既設農道の 1 辺を利用し、工事部分にあわせて A 及び B の 2 トレンチを調査した。グリッドの設定、掘削方法など笹山前遺跡に準じたが、調査面積が狭いため排土は機械ではなく人力により行った。

(2) 調査結果

奈良・平安時代（遺構：図 23～25、遺物：図 26, 27） 遺構は V 層及び VII 層上面で検出されたが、それぞれの時期差は明瞭には認められない。A トレンチの遺構はいずれも性格不明の遺構が多い。SK16 は規模と形状からみて井戸の可能性はあるが、附帯施設は一切検出されていない。B トレンチでは東端部で木枠を伴う井戸が発見された。部材は 2 段組で、遺存状態は比較的良好である。また、SK24 は規模の大きな土坑である。

遺物はSK7から珠洲焼の播鉢底部片が出土しているほかは、全て平安時代に属するものである。食膳具がほとんど須恵器の坏であり、わずかに土師器の椀（図26-10、12）がみられる程度であることから、9世紀後半が中心であると考えられる。食膳具のほかには煮炊具として鍋（図27-15、16）がみられる。15は薄い口縁が鋭く外側に屈曲しており、佐渡産と推定される。図25-14は用途不明の円筒状土製品である。一端は底部のようにふさがれており、内面には輪積みの痕跡が明瞭に残る。内外面とも粗いハケ調整が施され、ふさがれた一端の外面にはケズリも施されている。

中世（遺構：図24、遺物：図26） BトレンチのSK7から珠洲焼播鉢の底部片が出土している。おろし目は比較的細かいが、全体として遺存状態が悪く、詳細な時期は確定できなかった。

5 城山遺跡の調査

(1) 調査方法

拡幅される農道の形状に合わせて、トレンチを設定した。グリッドラインは農道の東側の縁辺部と一致させた。そのことにより、トレンチがちょうど10m大グリッドの中に収まる形となった（図28）。

掘り下げはI層をバックホーで除去したほかは人力で行った。1層下げごとに各層上面で遺構精査を行ったが、遺構が検出されたのはV層上面のみであった。その他調査方法は笹山前遺跡の調査に準じた。

(2) 調査結果

縄文時代（遺構：図29、遺物：図30、31） 出土土器からみて時期幅は前期前葉から後期前葉までであるが、前期前葉に属するものは半截竹管状工具によるコンパス文を持つ個体（図30-2や図31-17）が遺構内外からわずかにみられる程度である。笹山前遺跡と城山遺跡の双方で同時期に人間が居住していたことがわかる。

調査区外に広がるため全容が不明であるが、SK7とSK8はともに底面からの立ち上がりがある、浅い土坑である。覆土の堆積状況からSK8がSK7を切っていることがわかる。出土遺物も、SK7からは中期後葉の大木9式（図30-4、5）や10式（図30-7）に属する深鉢などが中心であるのに対し、SK8からは後期前葉の三十稲場式（図31-13、14）などが中心であり、明らかに時期差がみられる。図31-12は前期前葉の土器だが混入であろう。

遺構外の出土遺物としては前期前葉（前述）のものや後葉の諸磯C式（図31-19）がある。

中世（遺物：図31） 遺構外からの出土であるが、珠洲焼甕（図31-29、31）や壺（図31-30）が検出されている。

6 おわりに

(1) 笹山前遺跡について

笹山前遺跡については、今回の発掘調査範囲が遺跡南端部のごく一部に限定されているものの、縄文時代前期から奈良・平安時代に至る長期間、中断期間をはさみながらも居住の痕跡が見られることが明らかになった。

縄文時代前期の土器は新潟市で初の出土であり、遺跡の立地する砂丘形成年代の再検討を迫るものである。ただし縄文時代全体を通じて住居跡は検出されていないこと；また石錘の集積遺構の存在から、ここが恒常的な居住に用いられた集落ではなく、漁労、狩猟など生業のための一時的な拠点であった可能性が高いと考えられる。本来的な集落の位置は、周辺の縄文時代集落の調査が十分進んでいない現状では推定の域を出ないが、出土土器型式の多くが共通している巻町新谷遺跡を候補のひとつに挙げることができよう。当時も角田山麓と蔵岡周辺とは形成中の砂丘列である程度結びついていただと考えられるので、人間の往復は比較的容易だったであろう。

古墳時代においては中期の竪穴住居や墓坑、後期の掘立柱建物など多くの遺構が存在すること、また高坏・器台・勾玉・白玉・管玉といった祭祀にかかわる遺物が一定量出土していることから、全容は明らかでないものの拠点的性格を持つ集落であった可能性が高い。

奈良・平安時代においては、住居跡などは検出されていないが、井戸が複数存在していること、また出土須恵器・土

師器の様相からみて、上限は明らかでないもののおおむね8世紀後半から9世紀後半にかけての集落であったと推定される。

(2) 神明社裏遺跡、城山遺跡について

神明社裏遺跡は笹山前遺跡に隣接しており、基本層序がほぼ一致しているため、遺跡として一体のものである可能性もある。柱穴らしい遺構や井戸が存在していることから、規模は不明だが集落であったことは確実である。

城山遺跡の調査はきわめて小規模であるが、従来の踏査等の結果から推定されていた存続時期である縄文時代中期～後期のほか、今回の調査で前期の土器が出土したことにより、この土地における居住開始の時期をよりさかのぼることができた。

参考文献

武藤康弘 1988 「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究」『考古学雑誌』第74巻第2号

新潟市 1994 『新潟市史 資料編1 原始古代中世』

新潟市教育委員会 1995 『平成6年度埋蔵文化財発掘調査報告書』

新潟市教育委員会 1996 『平成7年度埋蔵文化財発掘調査報告書』

縄文セミナーの会 1997 『第10回 縄文セミナー 前期中葉の諸様相』

巻町 1994 『巻町史 資料編1 考古』

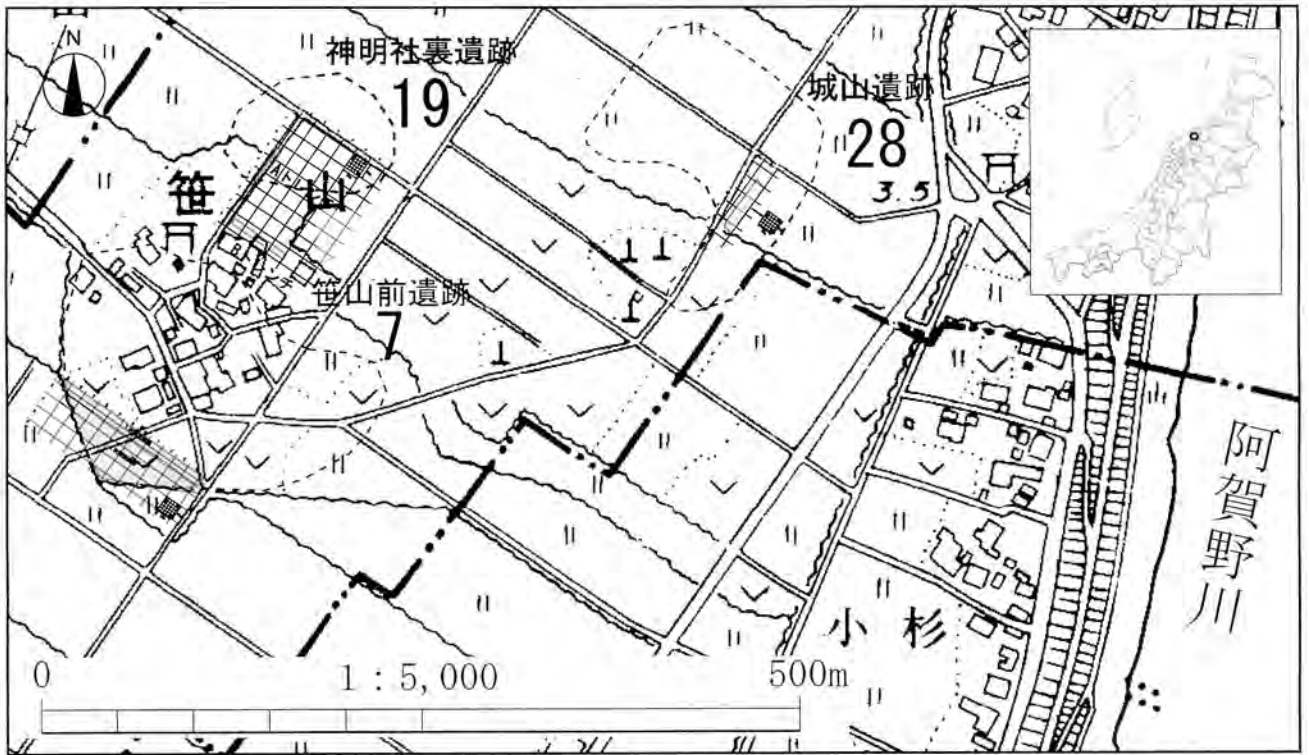
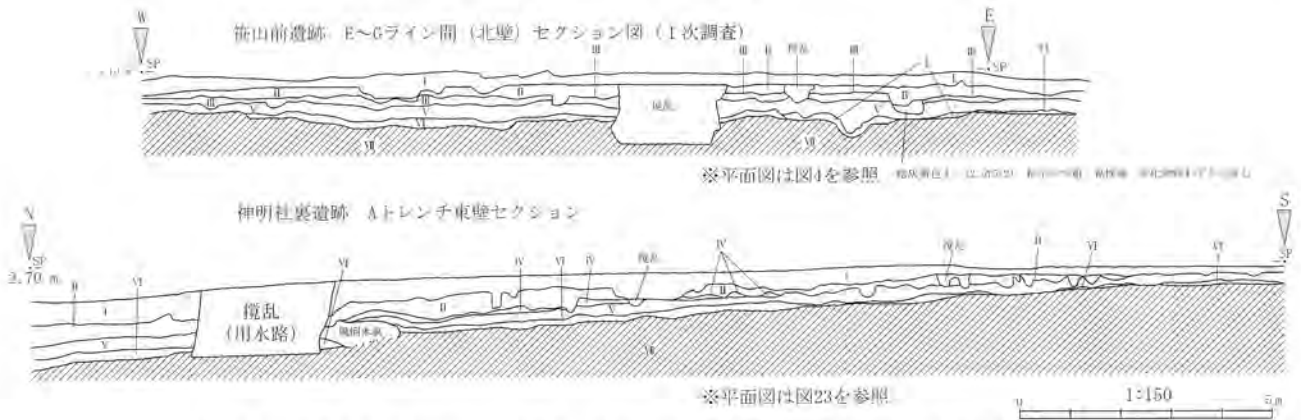


図1 笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡の立地と調査区設定状況
(破線：遺跡の推定範囲 アミ：調査範囲)



- I 表土 暗褐色土 (7.5YR3/4) ~ 灰褐色 (7.5YR4/2) の幅あり 粘性やや強 しまりやや強
- II シルト質粘質土 褐色 (7.5YR4/3) ~ にぶい黄褐色 (10YR4/3) の幅あり 粘性強 しまり強 漸移層明赤褐色 (5YR5/6) 含む
- III 粘質土 灰褐色 (7.5YR4/2) 粘性やや強 しまり強 (平安時代遺物包含層)
- IV シルト質粘土 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘性強 しまりやや強 (平安時代遺物包含層)
- V シルト質粘土 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘性強 しまり強 (縄文~平安時代遺物包含層)
- VI 砂質土 黒褐色 (7.5YR3/2) 粘性やや強 しまり弱 漸移層 (縄文~平安時代遺物包含層)
- VII 砂 灰黄色 砂丘基盤層

図2 笹山前遺跡・神明社裏遺跡基本層序 (城山遺跡の基本層序は図29を参照)

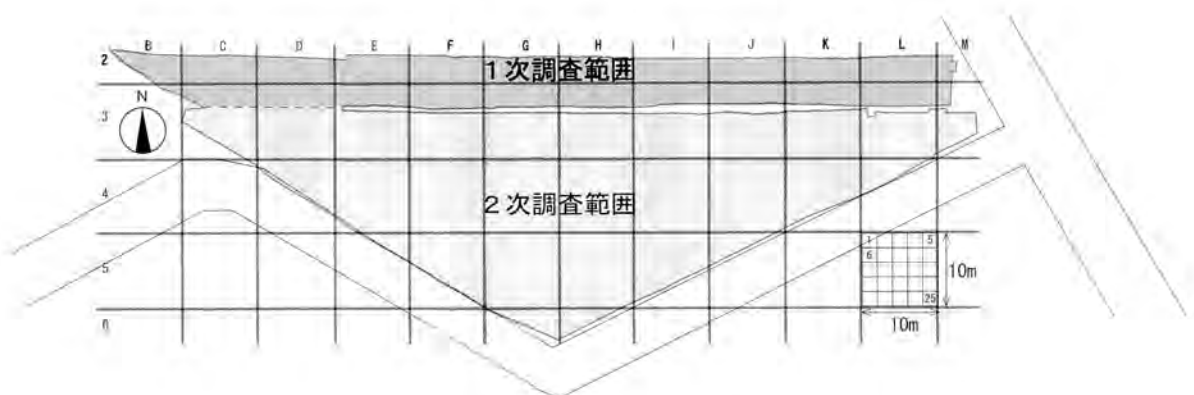


図3 笹山前遺跡調査区設定状況

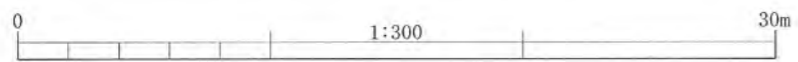
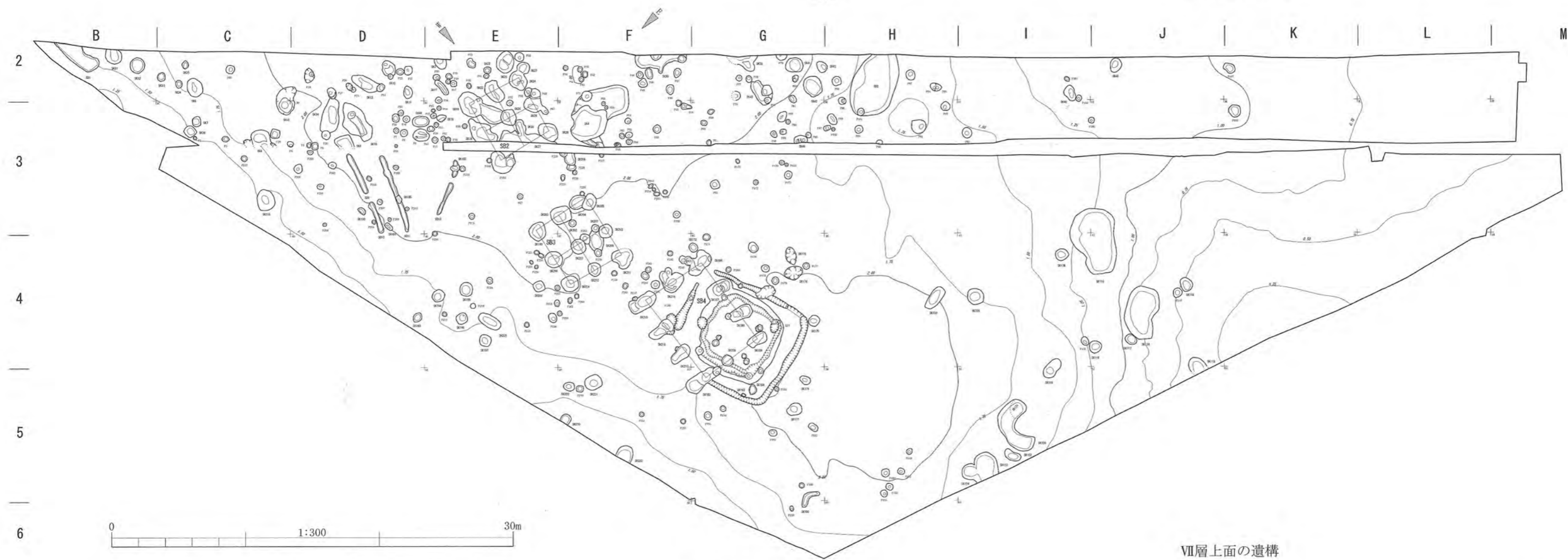
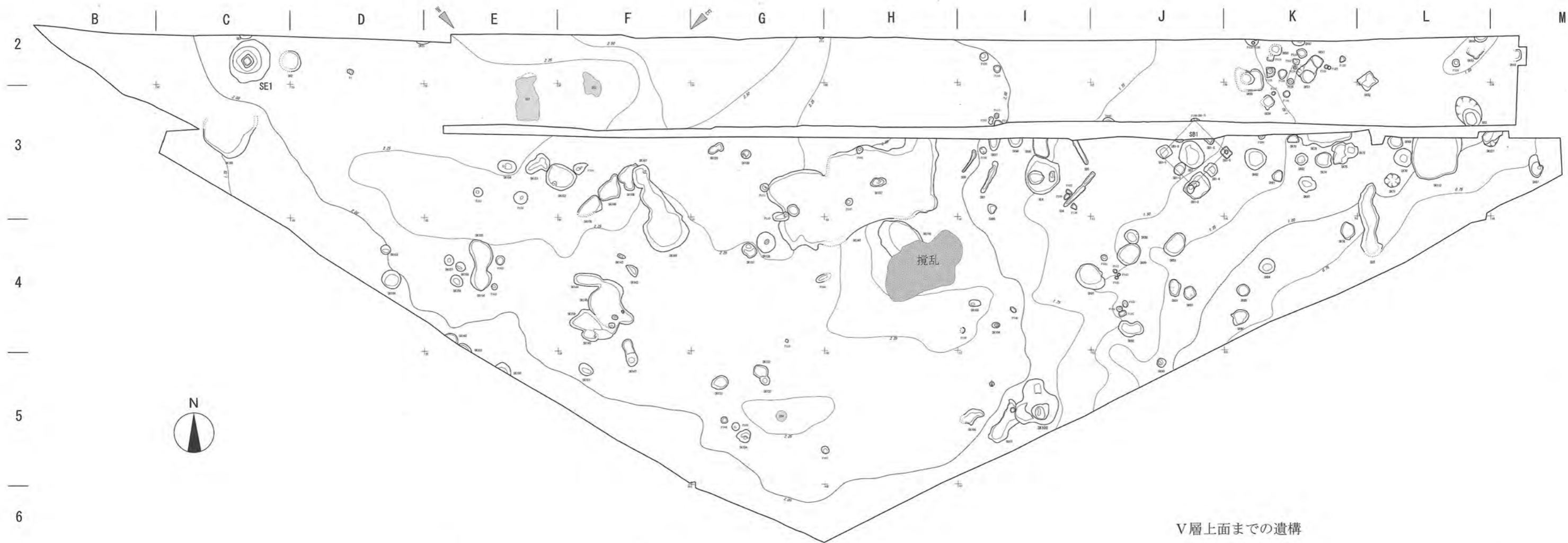


図4 笹山前遺跡 全体測量図

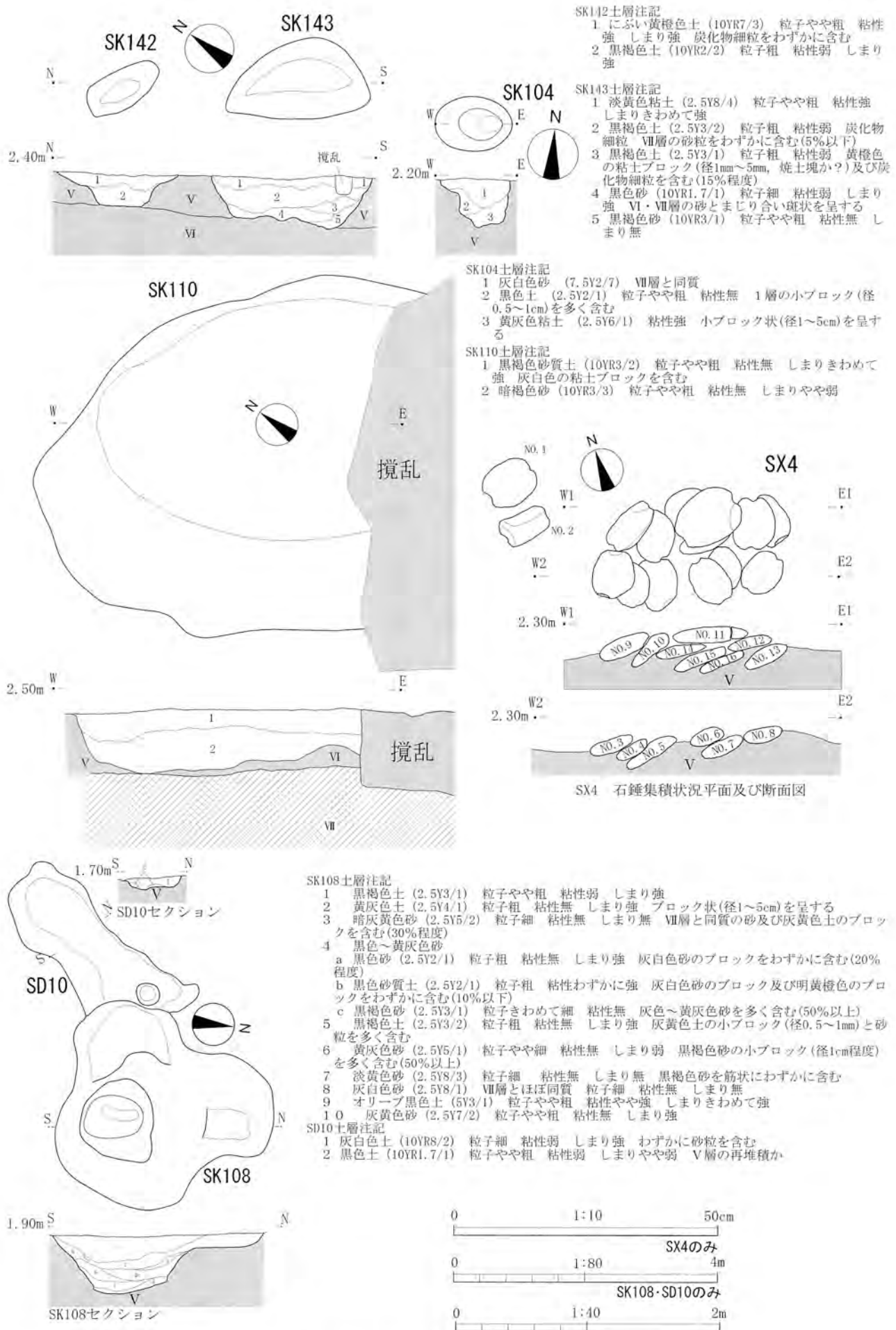


図5 笹山前遺跡遺構実測図1 (縄文時代の遺構1)

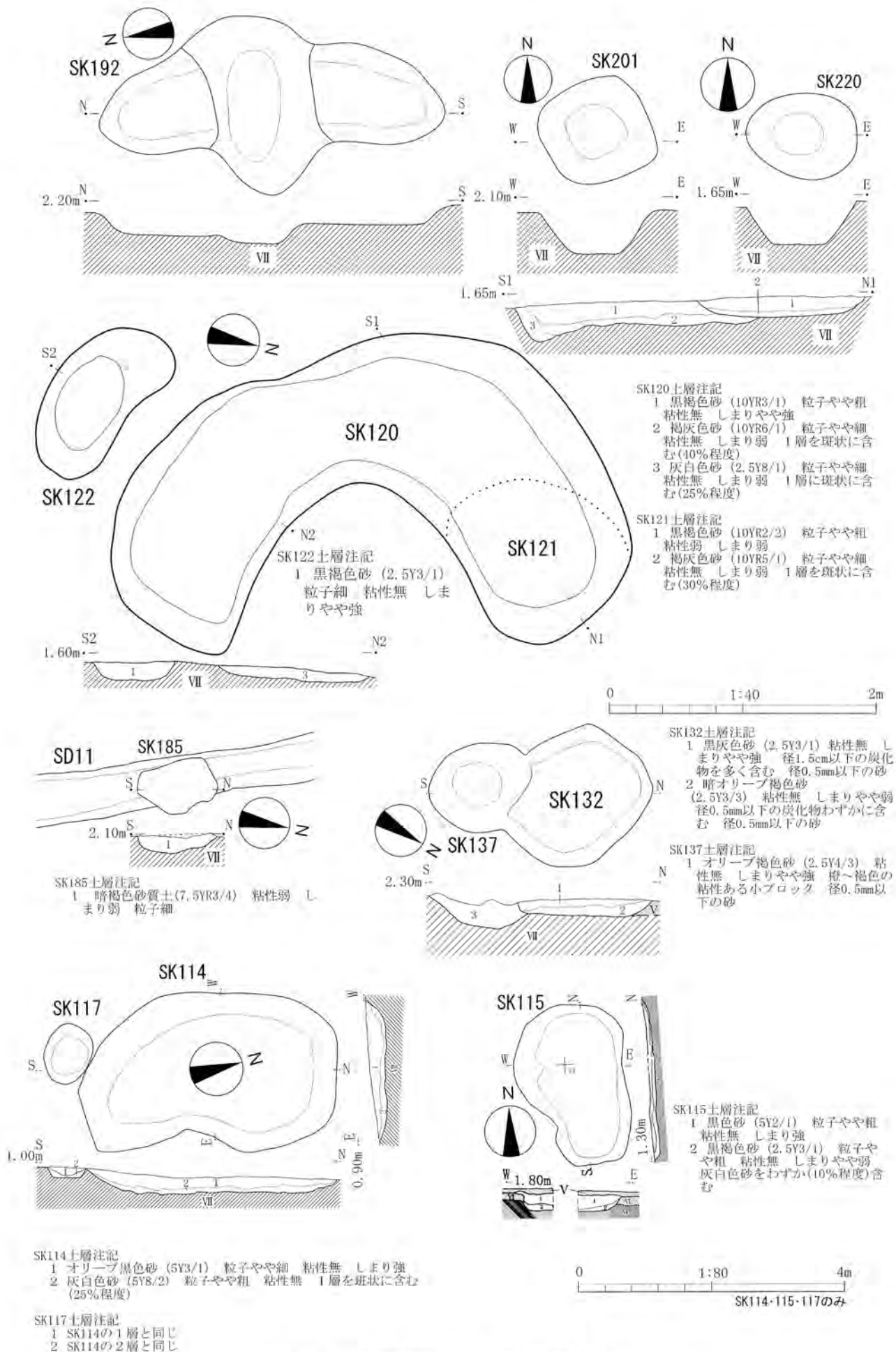
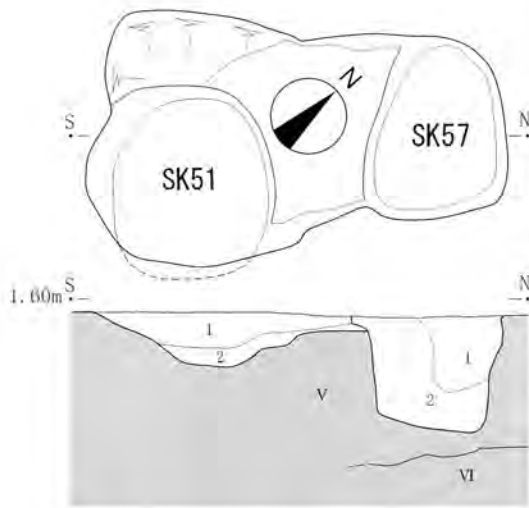
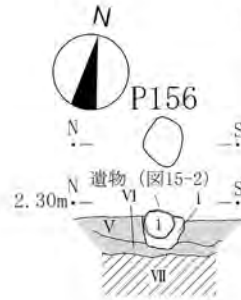


図6 笹山前遺跡遺構実測図2 (縄文時代の遺構2)

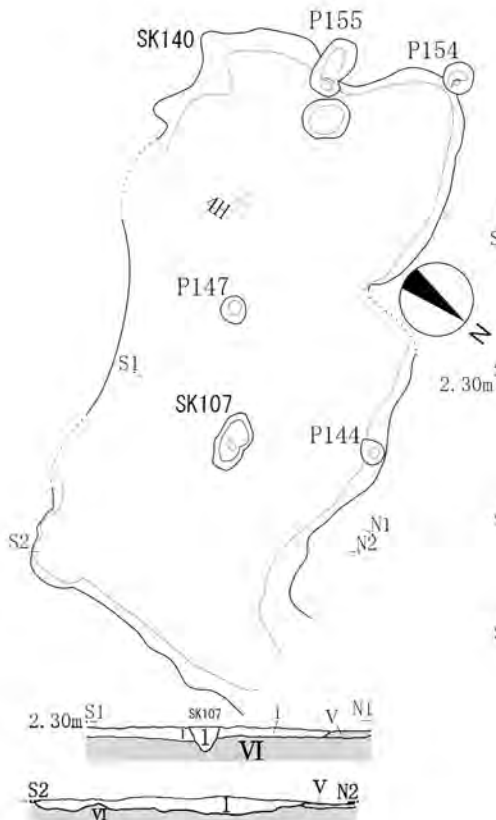


SK51土層注記
 1 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 粒子細 粘性強 しまり弱 炭化物の細粒をわずかに含む
 2 黄灰色粘土 (2.5Y4/1) 粒子やや粗 粘性強 しまり強 炭化物の細粒、a層の小ブロックをわずかに含む

SK57土層注記
 1 黄灰色粘土 (2.5Y5/1) 粘性強 しまり強やや軟質
 2 黒褐色粘土 (2.5Y3/1) 色調以外は1層と同じ

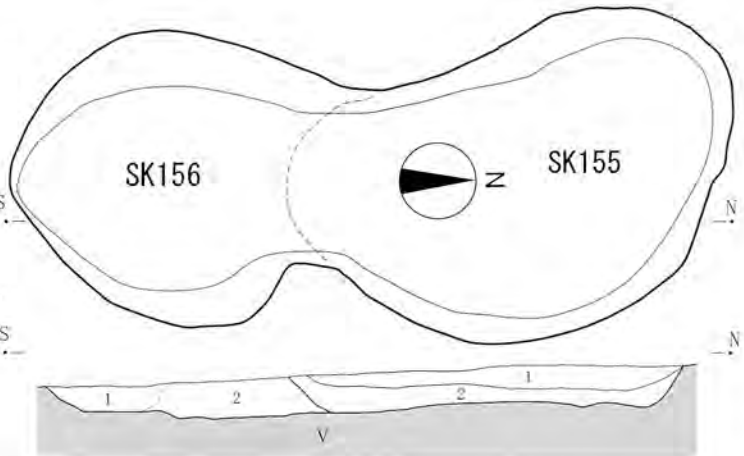


P156土層注記
 1 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子きわめて細 粘性弱 しまり弱 V層に比べやや明るい



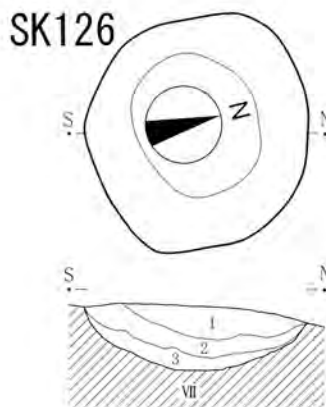
SK140土層注記
 1 黒褐色砂質土 (5YR3/1) 粒子やや粗 粘性弱 しまり強 明褐色粘土がごくわずかに混入する
 SK107土層注記
 1 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 粒子やや細 粘性無 しまり強 炭化物の微粒子を多数含む

0 1:100 5m
 SK140ほか

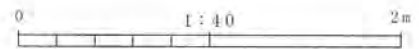


SK155土層注記
 1 黄灰色土 (2.5Y4/1) 粒子やや粗 粘性強 しまり強 炭化物微粒子をわずかに含む (1%以下)
 2 黒褐色土 (2.5Y3/1) 粘性弱 しまり強 炭化物微粒子をわずかに含む (1%以下)

SK156土層注記
 1 黒色土 (7.5Y2/1) 粒子やや細 粘性強 しまり強 炭化物微粒子を多く含む (20%以上) 骨粉 (炭骨径1mm程度) をごくわずかに含む (1%以下)
 2 オリーブ黒色土 (5Y3/1) 粒子細 粘性弱 しまり強 炭化物微粒子をわずかに含む (10%程度) 骨粉を多く含む (20%程度)

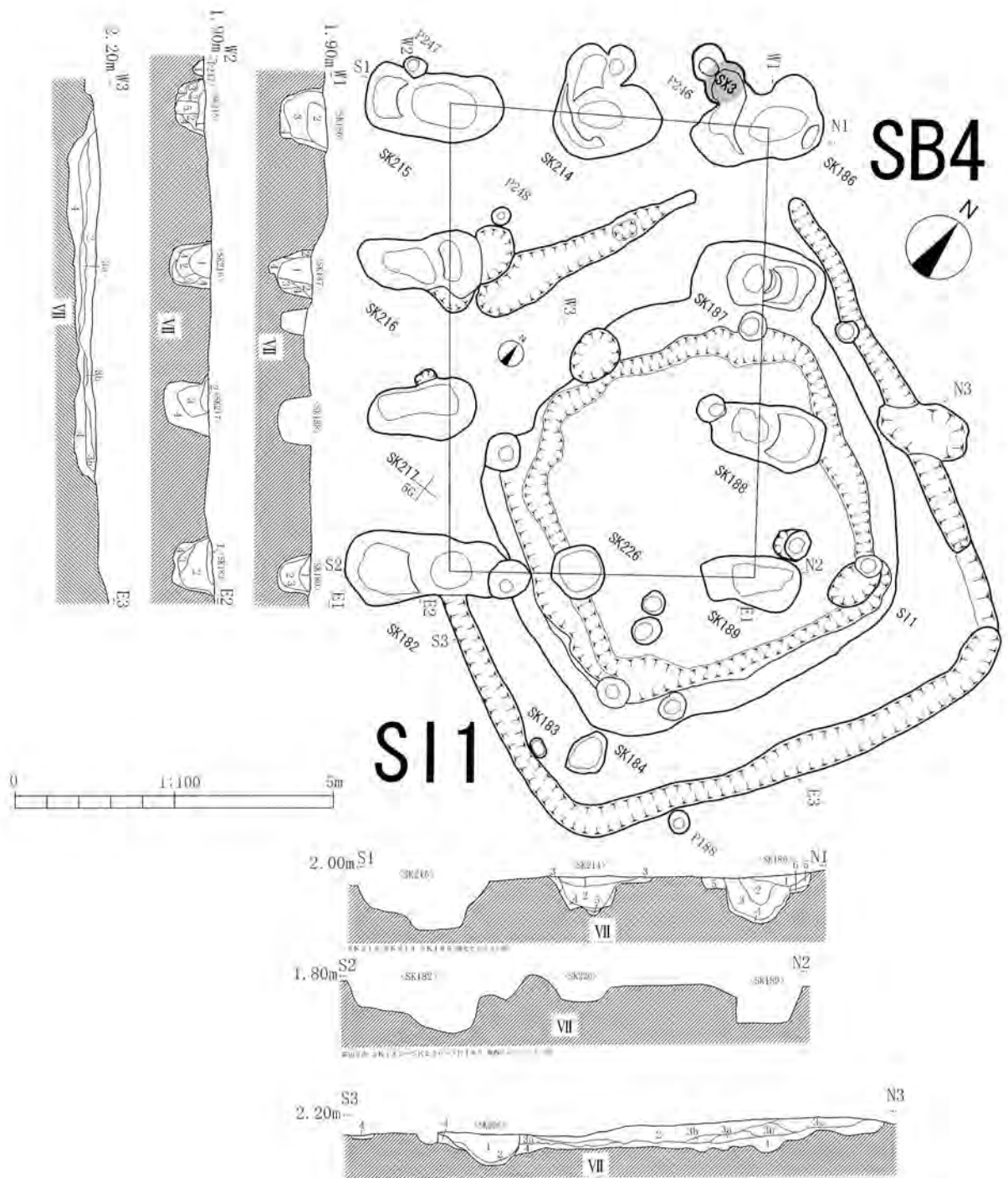


SK126土層注記
 1 黒色砂 (5Y2/1) 粒子やや粗 粘性弱 しまり強 炭化物細粒をわずかに含む
 2 オリーブ黒色砂 (5Y3/1) 粒子やや粗 粘性無 しまり強 炭化物細粒をごくわずかに含む
 3 灰色砂 (5Y4/1) 粒子やや細 粘性無 しまり弱 VII層をごくわずかに斑状に含む (10%程度)



その他遺構

図7 笹山前遺跡遺構実測図3 (縄文時代の遺構3・古墳時代の遺構1)



SI1土層注記

- 1 黒褐色砂質土(2.5Y3/1) 粒子やや粗 粘性強 しまり強
- 2 黒色砂(2.5Y2/1) 粒子やや細 粘性弱 しまりやや弱 炭化物細粒(径0.5cm)をごくわずかに含む(1%以下)
- 3 オリーブ黒色砂(5Y3/1) 粒子やや細 粘性無 しまり弱 まだら状に2層を含む(50%) 炭化物細粒(径0.5cm)をごくわずかに含む(1%以下)
- 4 暗灰黄色砂(2.5Y5/2) 粒子やや粗 粘性無 しまり無 VII層がまだら状に含まれる(10%程度)
- 5 黒色砂(10YR2/1) 粒子やや粗 粘性弱 しまりやや弱 VII層をまだら状に含む(15%程度)
- 6 黒色砂(10YR1, 7/1) 性質は5層と同じ VII層をまだら状に多く含む(50%)

SI1土層注記

- 1 SK226の1層とほぼ同じ
- 2 褐色砂(10YR4/1) 粒子やや粗 粘性無 しまり強 炭化物細粒(径1.0mm)を含む(1%)
- 3 a 黒褐色砂(10YR3/2) 粒子やや粗 粘性無 しまり強 炭化物細粒(径1.0~5.0mm)を含む(10%) 炭化物を目立って多く含む層
- 3 b 黒色砂(2.5Y2/1) 粒子やや細 粘性無 しまり強 炭化物粒(径5.0mm~2.0cm)を多く含む(20%) 炭化物を目立って多く含む層
- 4 灰黄色砂(2.5Y7/2) 粒子細 粘性無 しまり弱 黒褐色のしみを多く含む(50%) 炭化物細粒をごくわずかに含む(1%以下)

SK226土層注記

- 1 オリーブ黒色砂(5Y3/1) 粒子粗 粘性無 しまり強 炭化物細粒(径1.0~5.0mm)・灰白色砂を多く含む(5%)
- 2 灰黄色砂(2.5Y6/2) 粒子やや粗 粘性無 しまり強 1層のブロック炭化物細粒(径1.0mm)を多く含む(40%)

図8 笹山前遺跡遺構実測図4(古墳時代の遺構2)

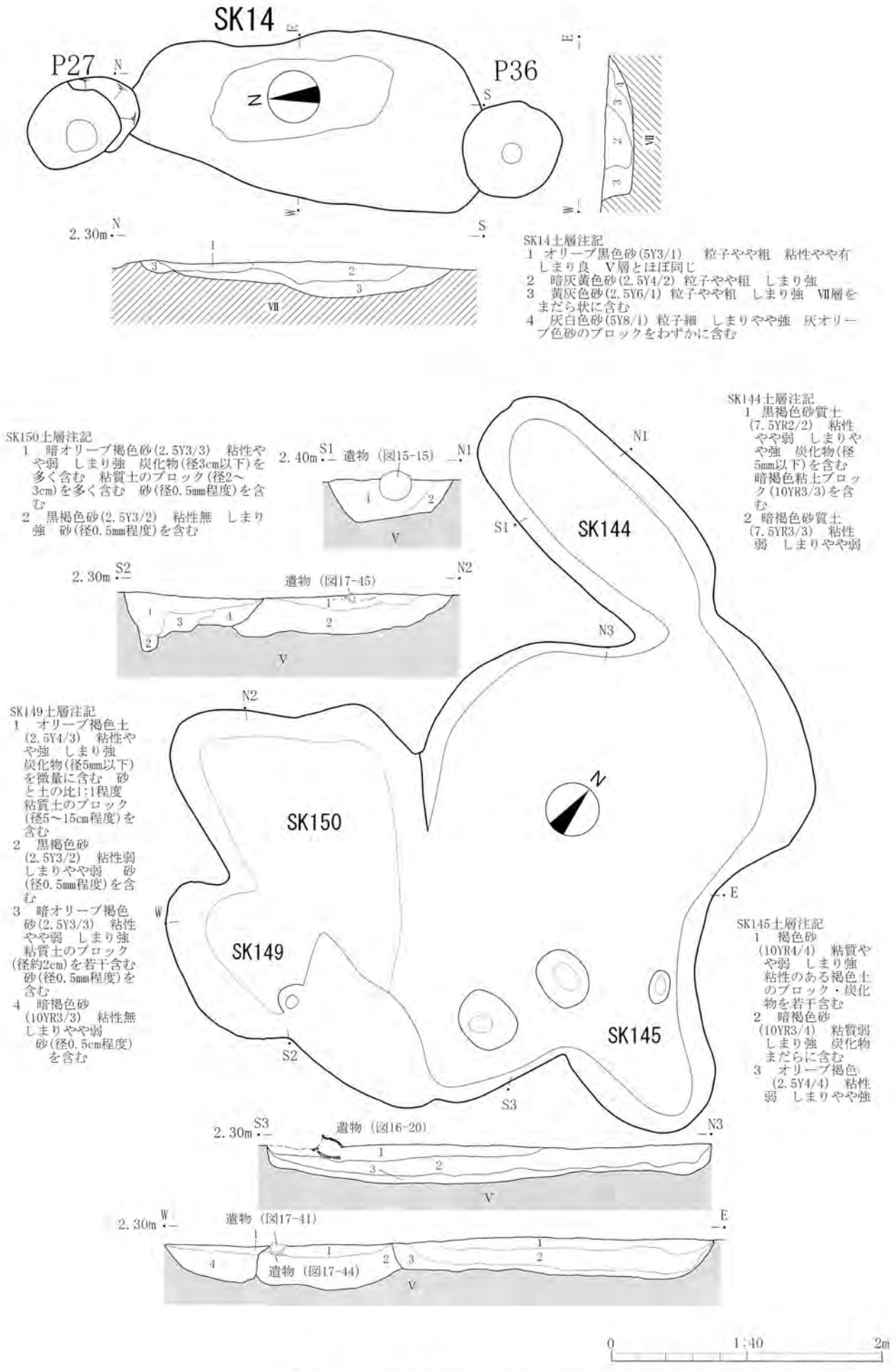


図9 笹山前遺跡遺構実測図5 (古墳時代の遺構3)

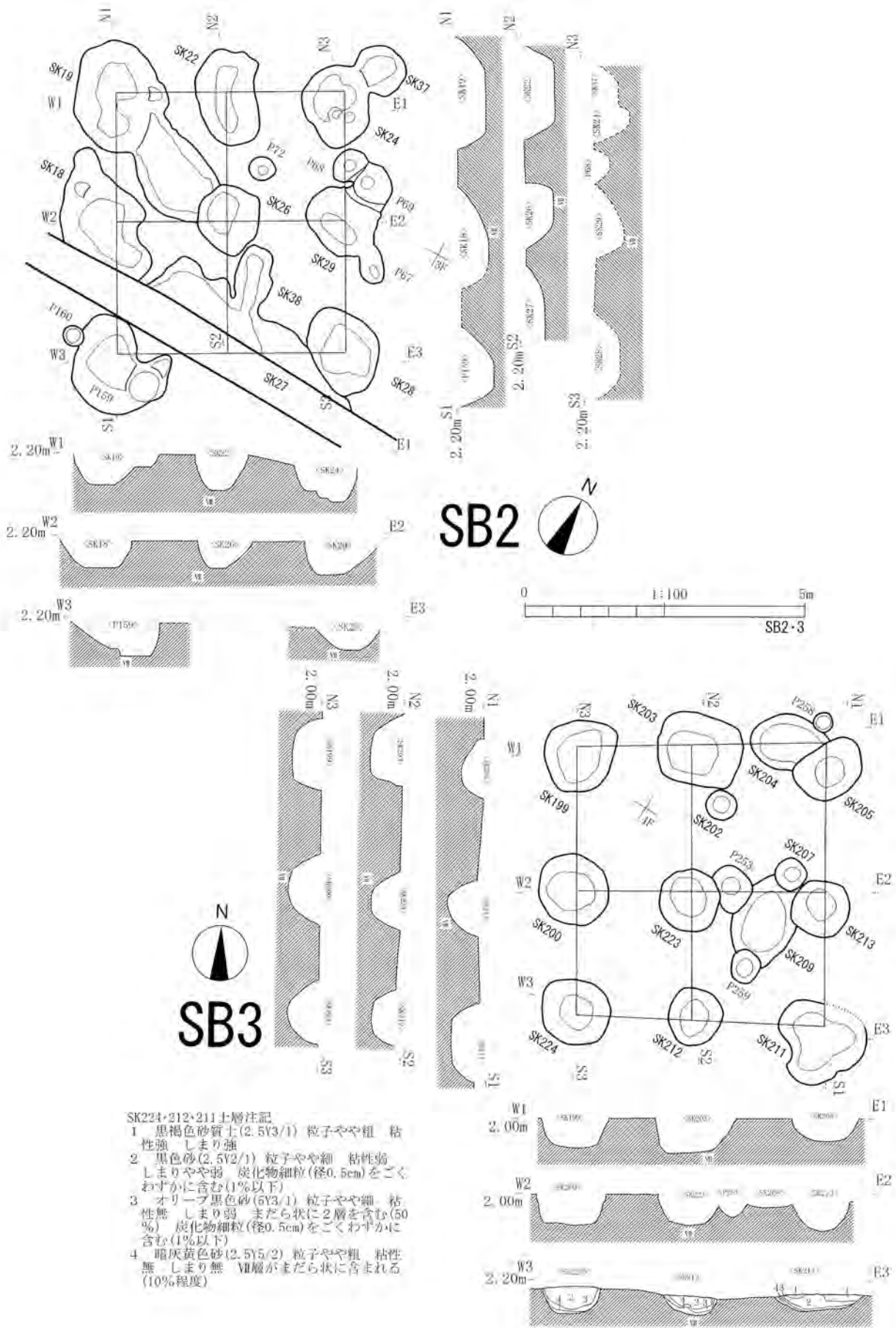
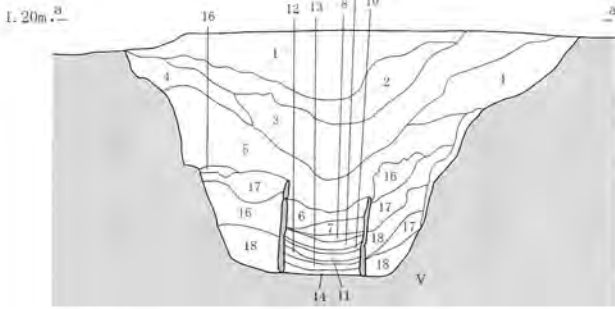
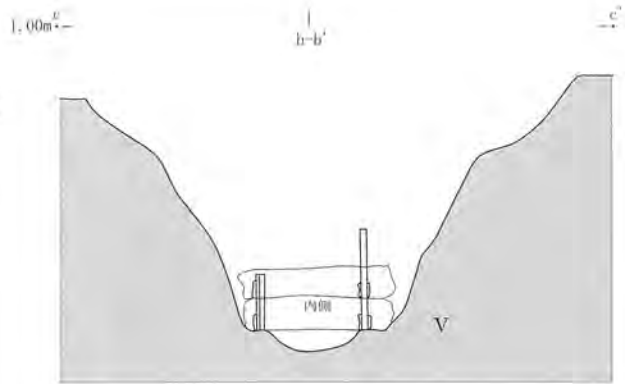
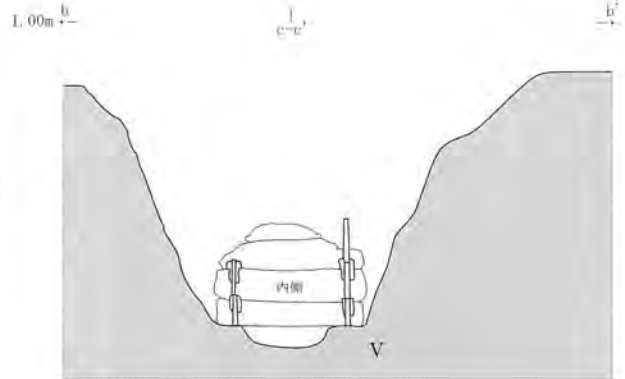
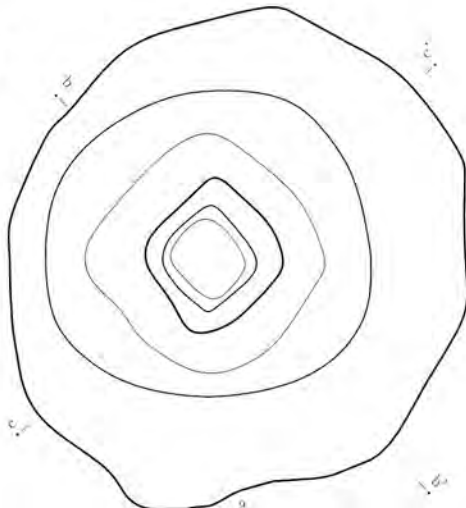


図10 笹山前遺跡遺構実測図6 (古墳時代の遺構4)

SE1

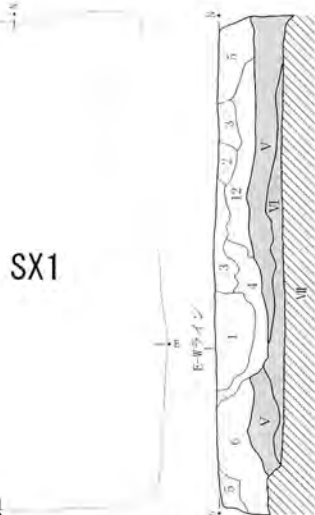


SE1土層注記

- 1 暗灰黄色粘質土(2.5Y4/2) 粘性きわめて強 しまりきわめて強 砂・酸化鉄(炭化物)を多く含む
- 2 オリーブ褐色砂(2.5Y4/3) 粘性やや強 しまり強 砂・炭化物多く含む 1層よりも砂をやや多く含む
- 3 暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3) 粘性弱 しまりやや強 砂・炭化物(径3~5mm)やや多く含む
- 4 黒褐色砂(2.5Y2/3) 粘性弱 しまりやや強 淡黄砂・炭化物(径1~3mm)少量含む
- 5 暗オリーブ褐色砂(2.5Y3/3) 粘性弱 しまりやや強 淡黄砂をやや多く含む
- 6 黒褐色砂(2.5Y2/3) 粘性やや強 しまりやや強 淡黄砂をやや多く含む
- 7 暗オリーブ褐色砂(2.5Y2/3) 粘性弱 しまりやや弱 淡黄砂を多く含む
- 8 オリーブ褐色砂(2.5Y4/3) 粘性弱 しまりやや弱 淡黄砂を多く含む
- 9 黒褐色砂(2.5Y2/3) 粘性弱 しまりやや強 淡黄砂若干含む
- 10 黒褐色砂(2.5Y2/3) 粘性やや強 しまりやや強 粘質土を含む
- 11 暗オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 植物片をやや含む 砂を多く含む
- 12 黒褐色粘質土(2.5Y2/3) 粘性強 しまり強 植物片多く含む
- 13 黒褐色土(2.5Y2/3) 粘性やや強 しまり強 植物片多く含む 砂をやや多く含む
- 14 黄色砂(2.5Y8/8) 淡黄色砂の地山が酸化した層
- 16 淡黄色砂(5Y8/3) 粘性やや弱 しまりやや弱 オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)がまだら状に混入する
- 17 オリーブ褐色砂(2.5Y4/3) 粘性やや弱 しまりやや弱 砂を基調とし、焼黄色砂(5Y8/3)がまだら状に混入する
- 18 淡黄色砂(5Y8/3) 粘性やや弱 しまりやや弱 オリーブ褐色砂(2.5Y4/3)を少量含む

SK26

SX1



SX1・SK26土層注記

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性強 しまり強 焼土粒(径2~3mm)を多く含む 炭化物(径1~2mm)を多く含む
- 2 にぶい赤褐色土 (5YR) 粘性弱 しまり強 焼土粒(径1mm以下)を多く含む 焼土粒(径3mm)を少量含む 炭化物(径1mm~3mm)を少量含む
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘層やや強 しまり強 1層ブロック(径1~2cm)をやや多く含む
- 4 褐色土 (10YR4/4) 粘性弱 しまり強 焼土粒(径2~3mm)、炭化物(径2~3mm)を少量含む
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性やや強 しまり強 炭化物(径1~2mm)を少量含む
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱 しまりやや弱 炭化物(径1~2mm)を若干含む
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性弱 しまりやや強 炭化物(径1~2mm)を若干含む
- 8 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘性やや強 しまり弱 1層と7層の混合土
- 9 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性弱 しまりやや弱 VII層を若干含む
- 10 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性弱 しまり弱 VII層を多く含む
- 11 オリーブ褐色土 (2.5Y4/6) 粘性弱 しまり弱 VII層砂をきわめて多く含む
- 12 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性弱 しまり強 炭化物(径1mm)を若干含む

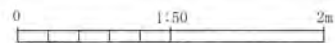


図11 笹山前遺跡遺構実測図7(奈良・平安時代の遺構1)

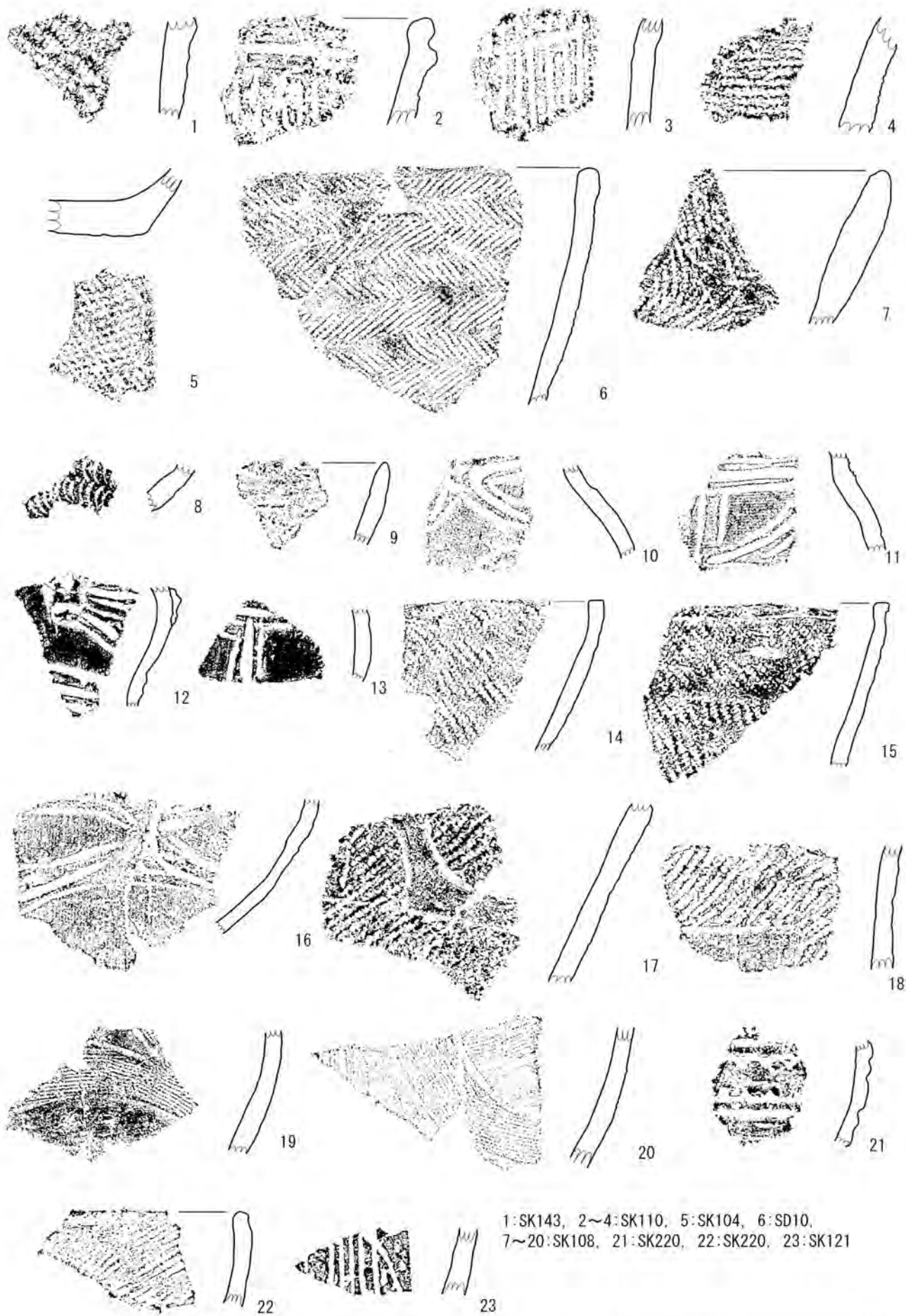


圖13 笹山前遺跡出土土器1 (遺構出土縄文土器)

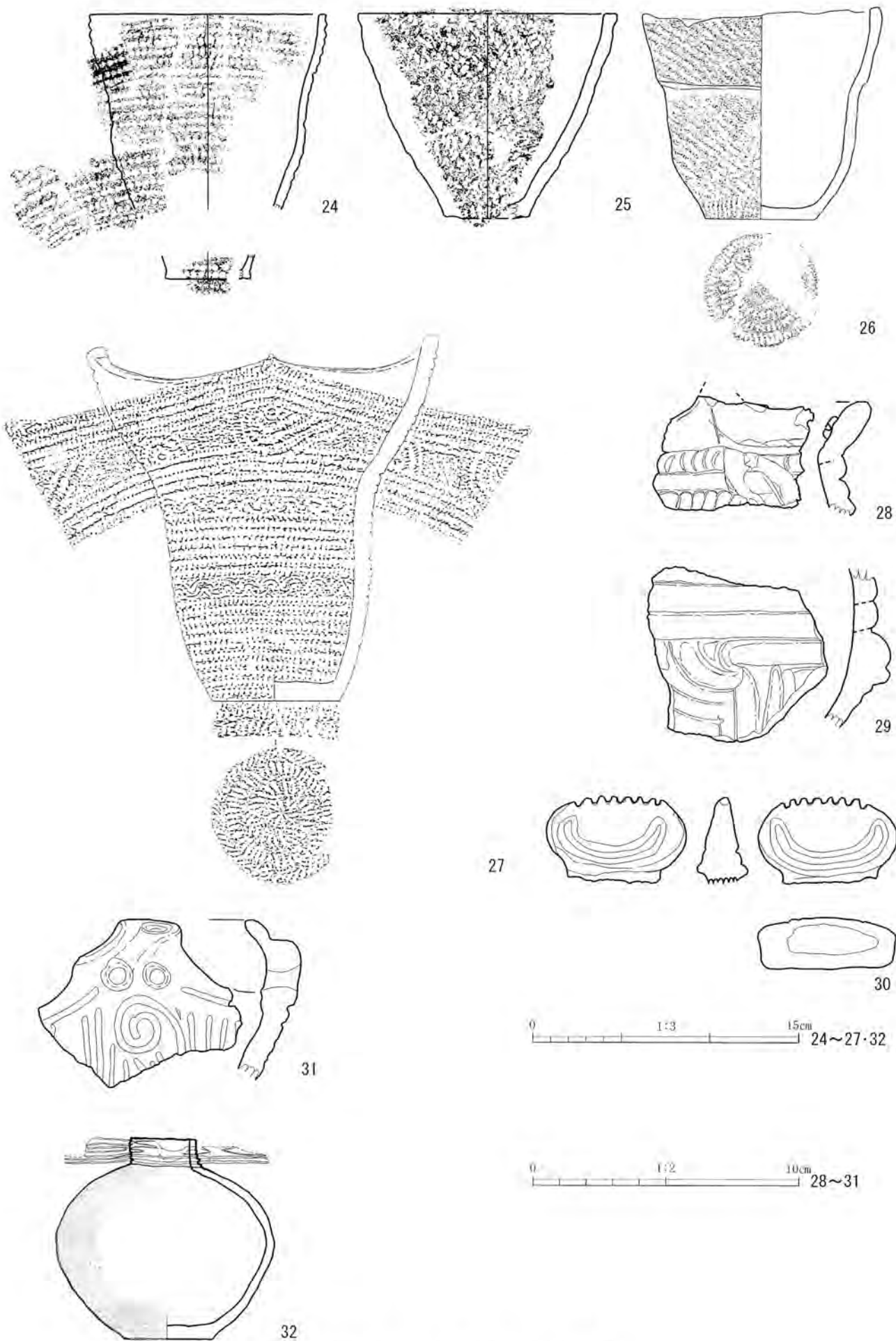


圖14 笹山前遺跡出土土器2（遺構外出土縄文土器）

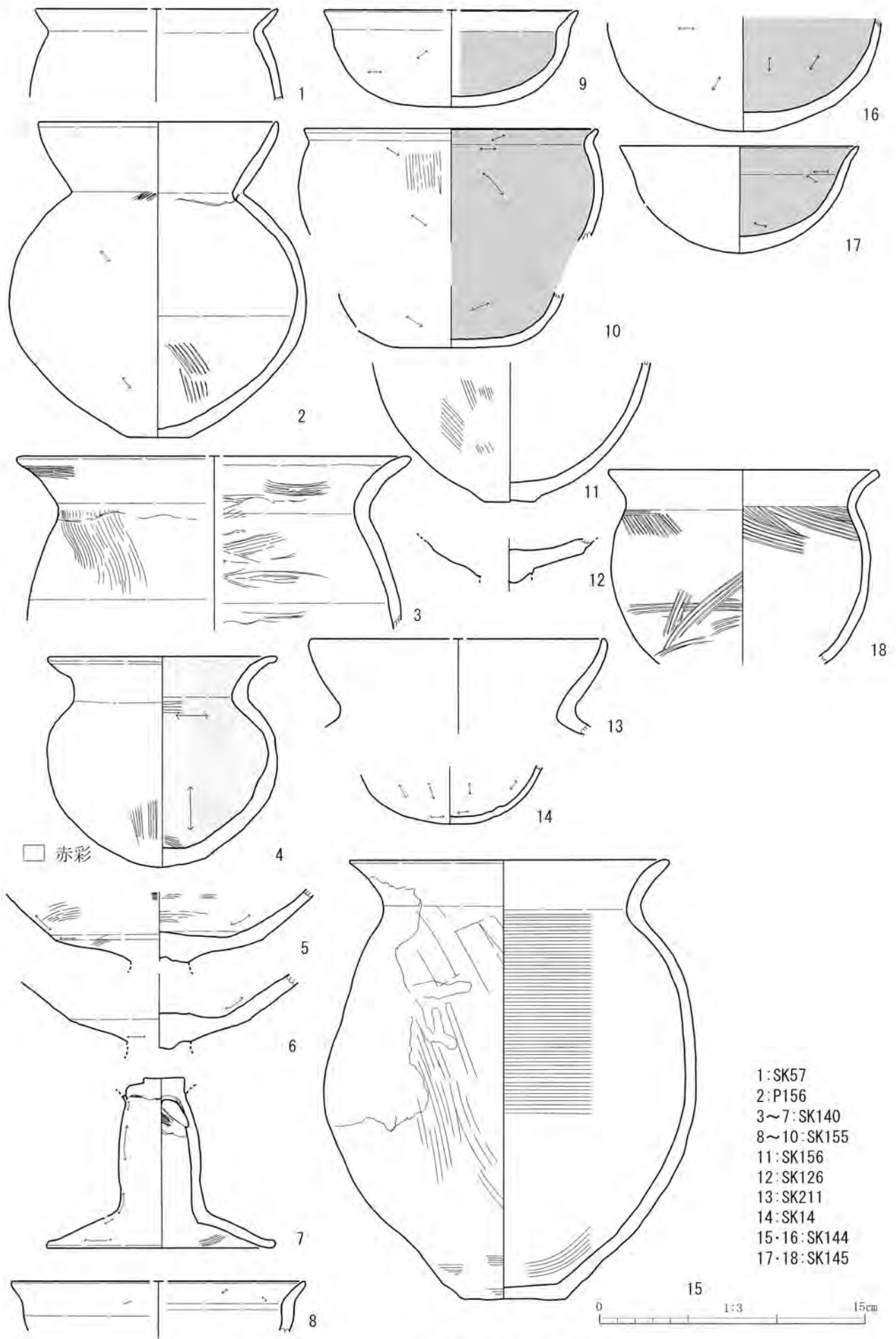


图15 笹山前遺跡出土土器3（遺構内出土古墳時代土師器）

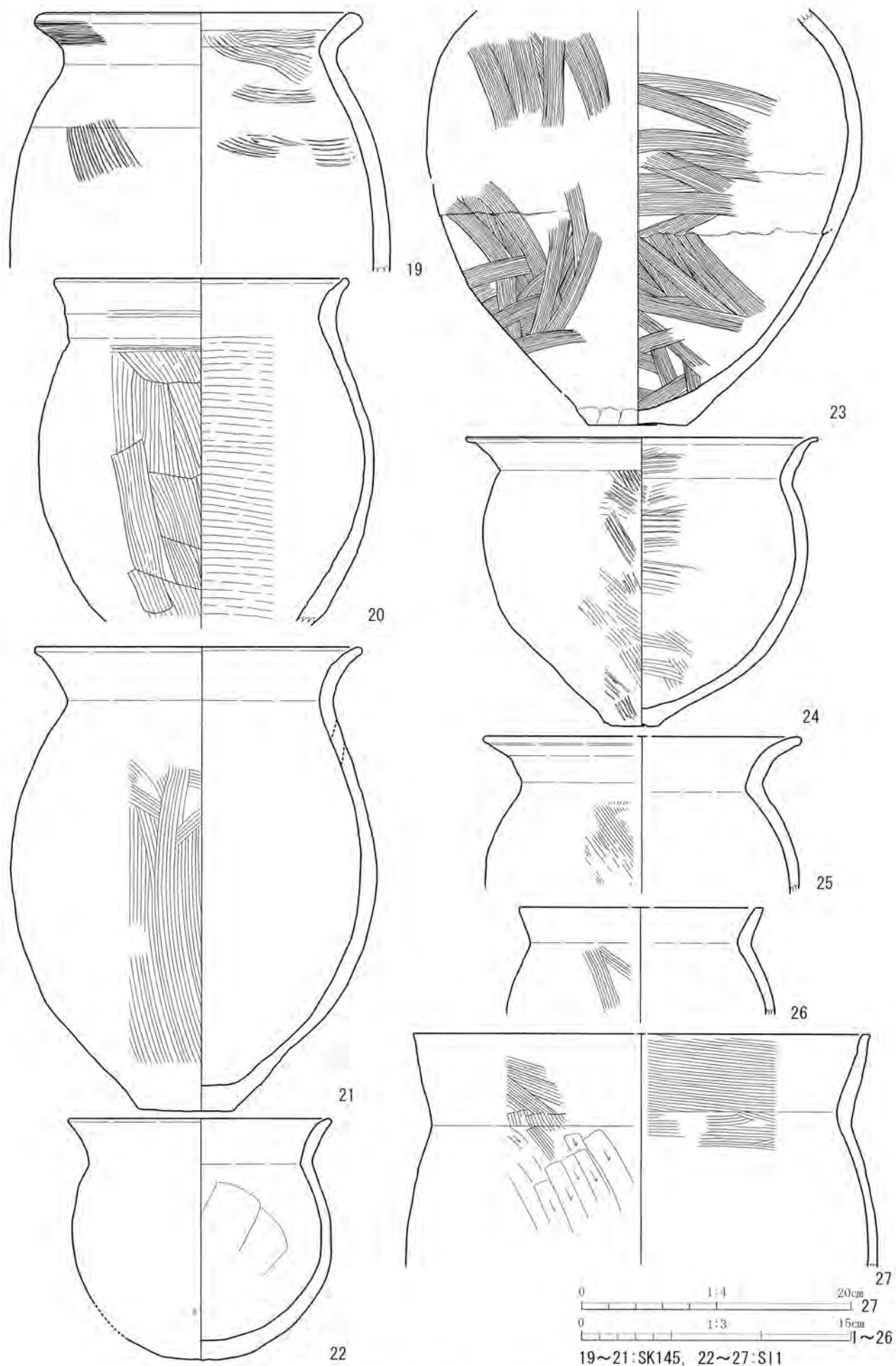


図16 笹山前遺跡出土土器4（遺構内出土古墳時代土師器）

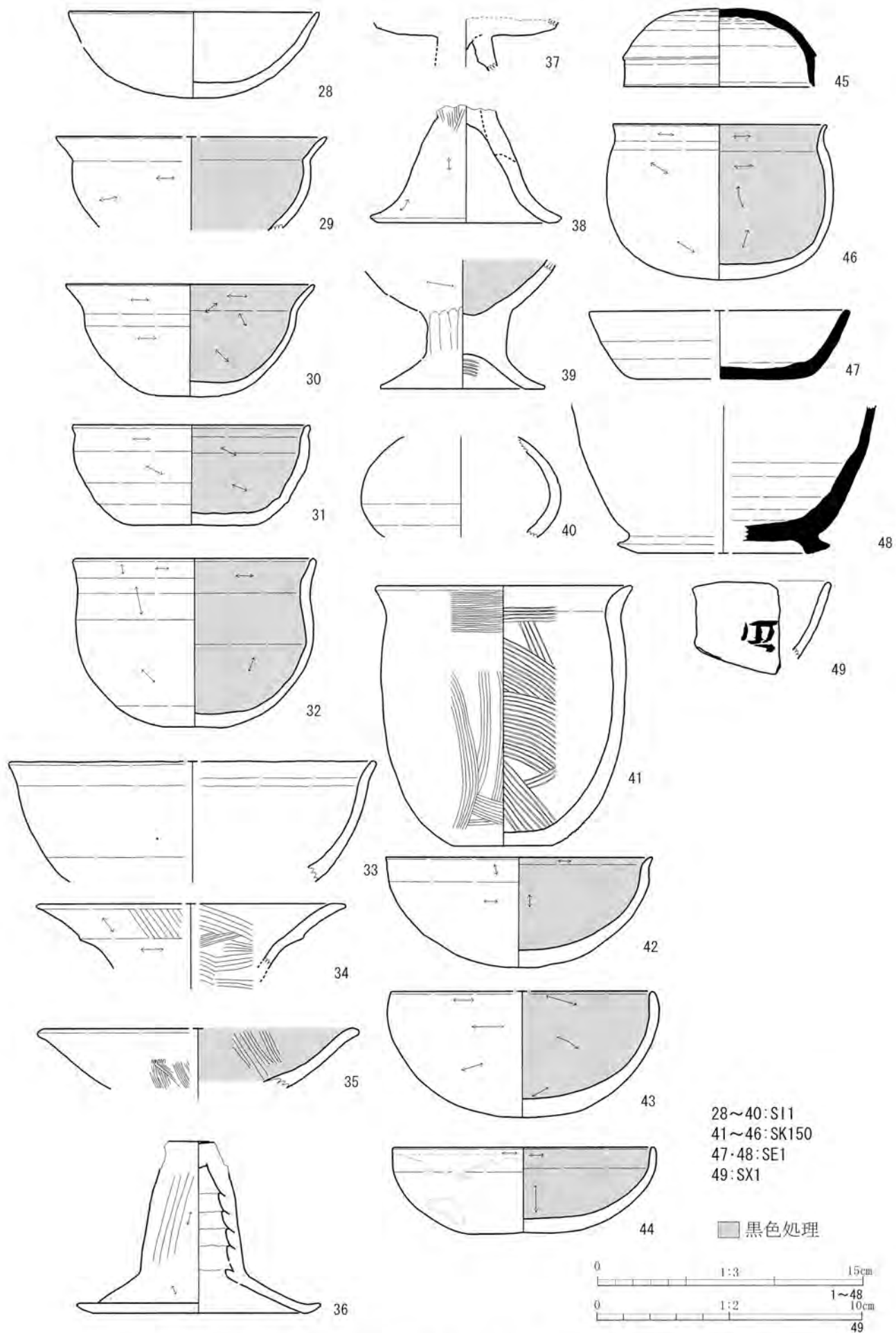


图17 笹山前遺跡出土土器5 (遺構内出土古墳時代土師器ほか, 奈良・平安時代須恵器・土師器)

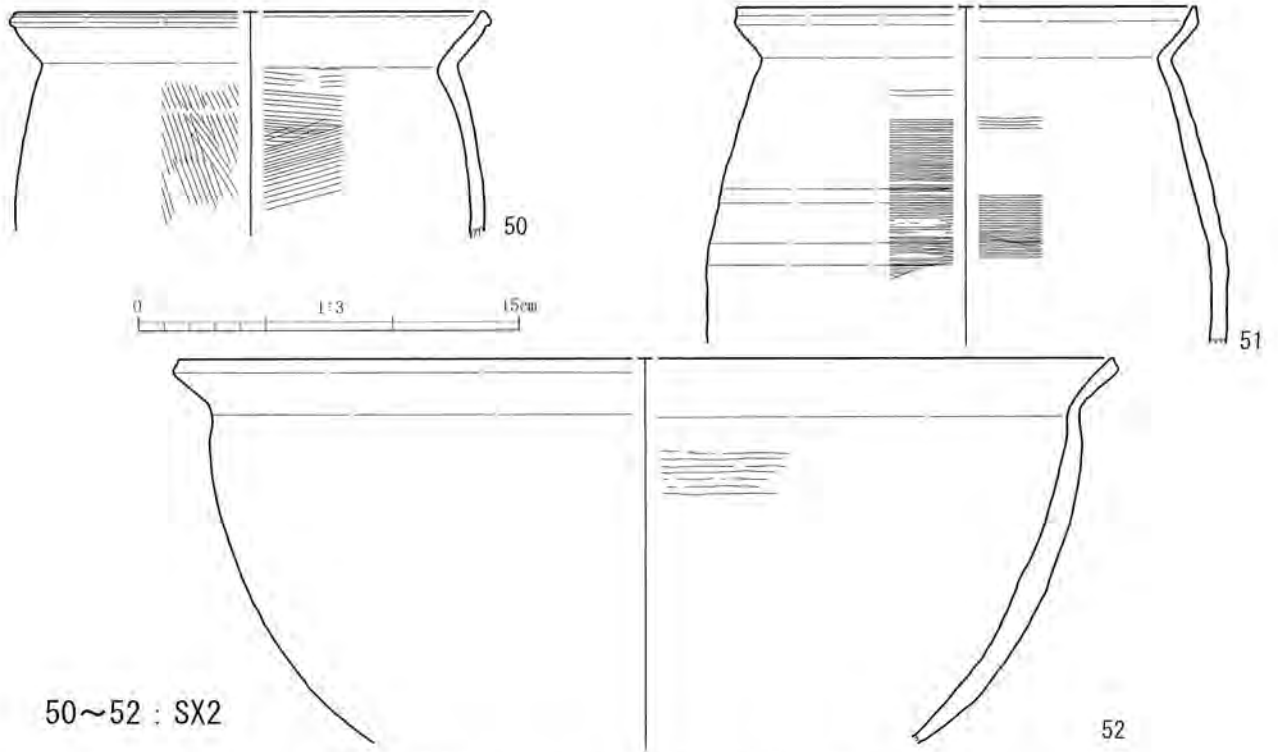


図18 笹山前遺跡出土土器6（遺構内出土平安時代土師器）

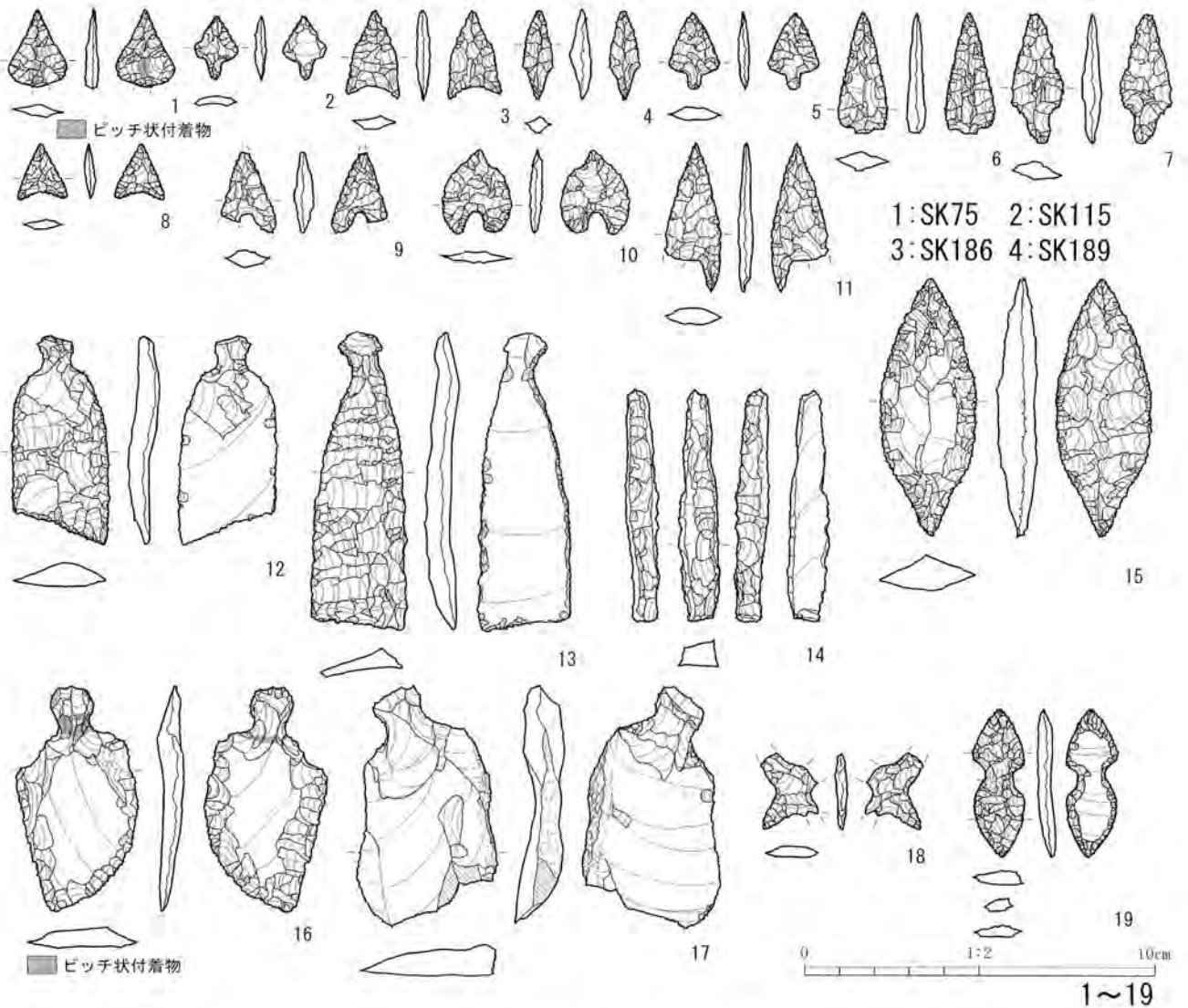


図19 笹山前遺跡出土石器・石製品1

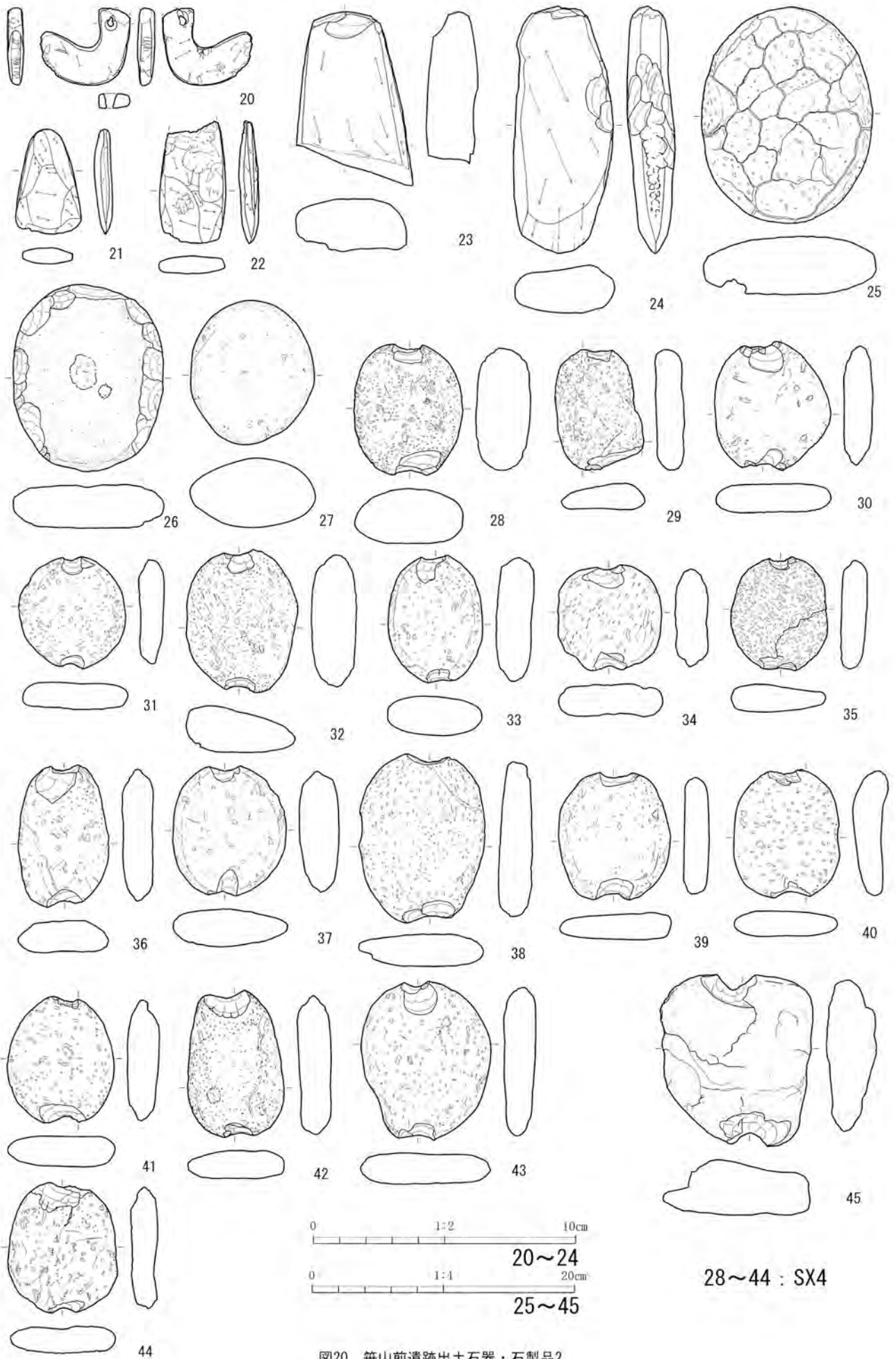


図20 笹山前遺跡出土石器・石製品2

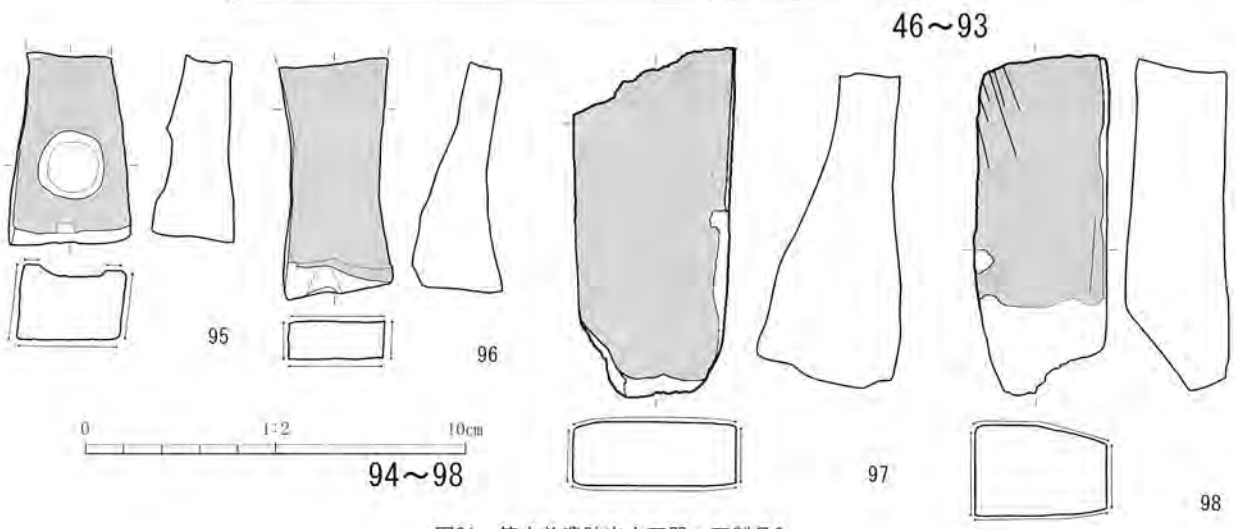
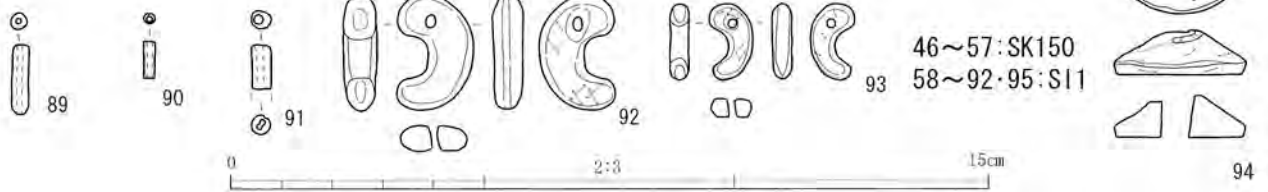
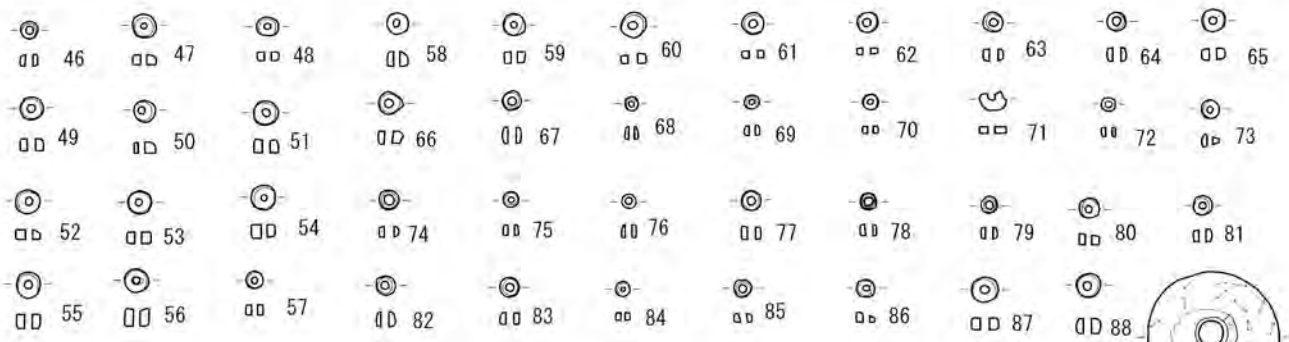


图21 笹山前遺跡出土石器・石製品3

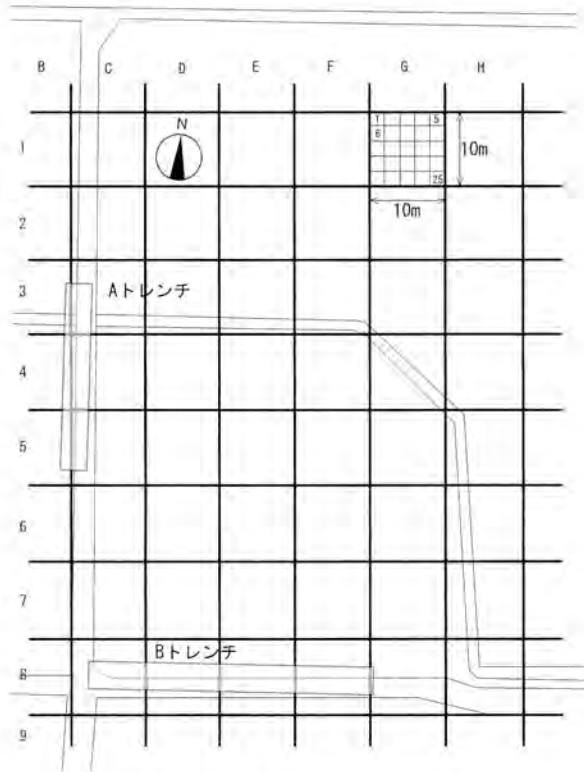


図22 神明社裏遺跡調査区設定状況

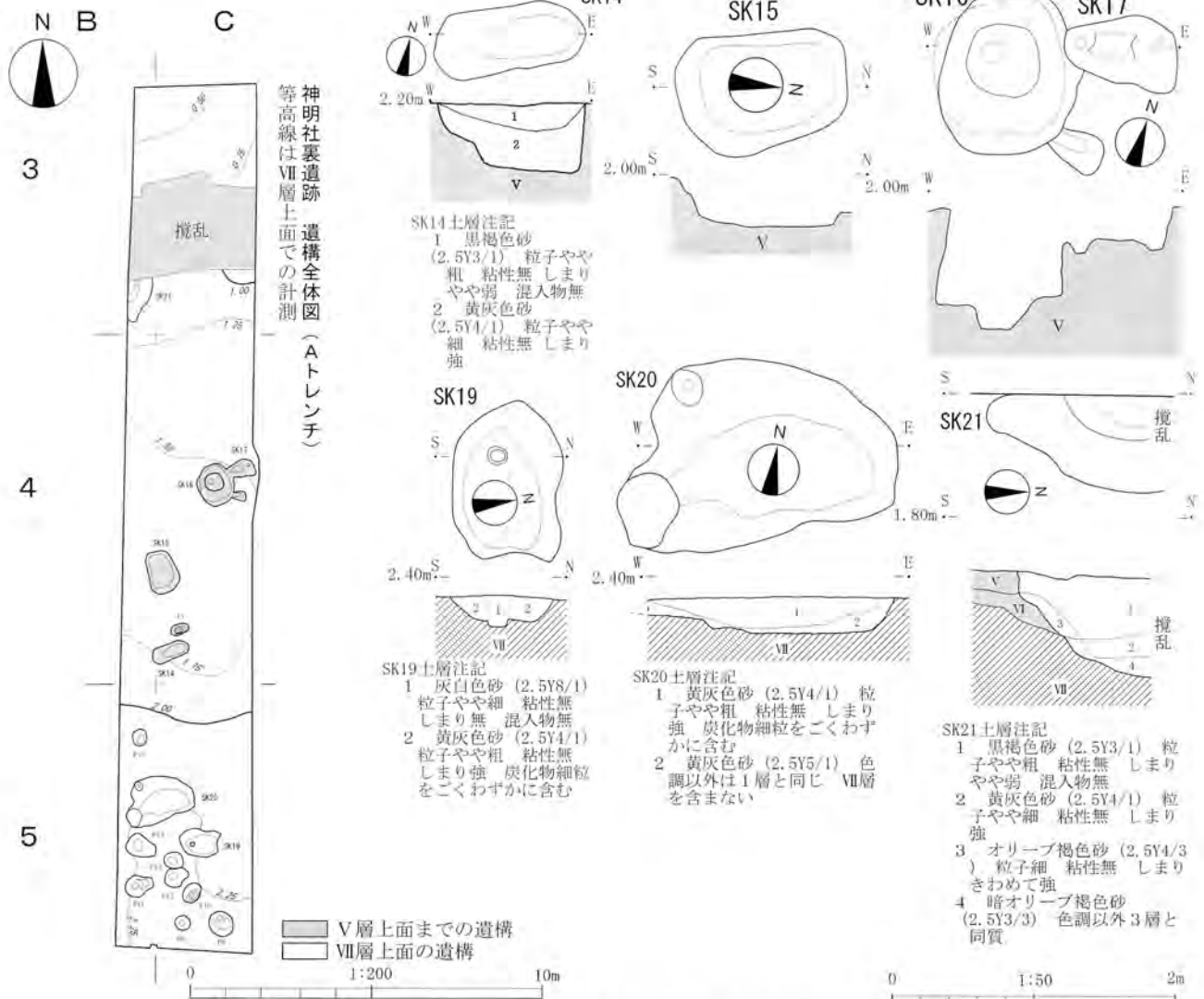


図23 神明社裏遺跡 遺構実測図1 (Aトレンチ)

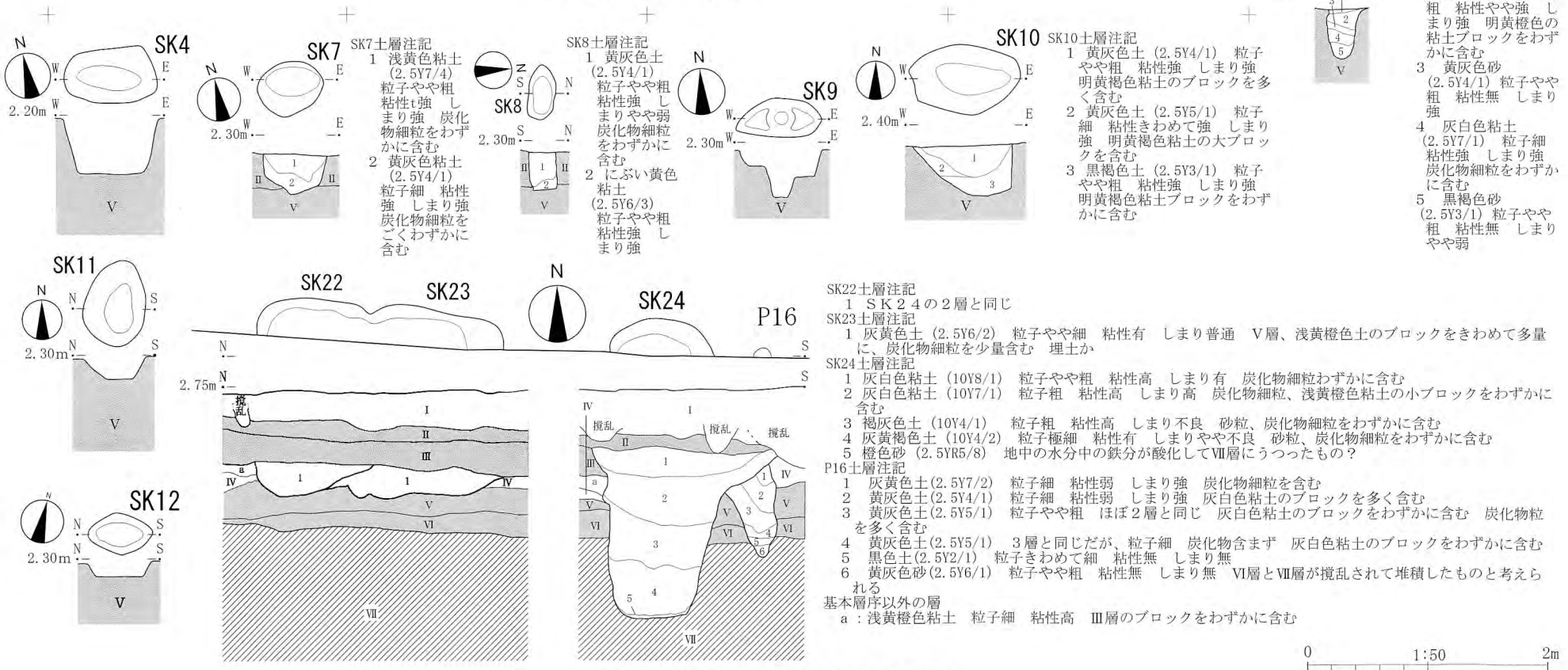
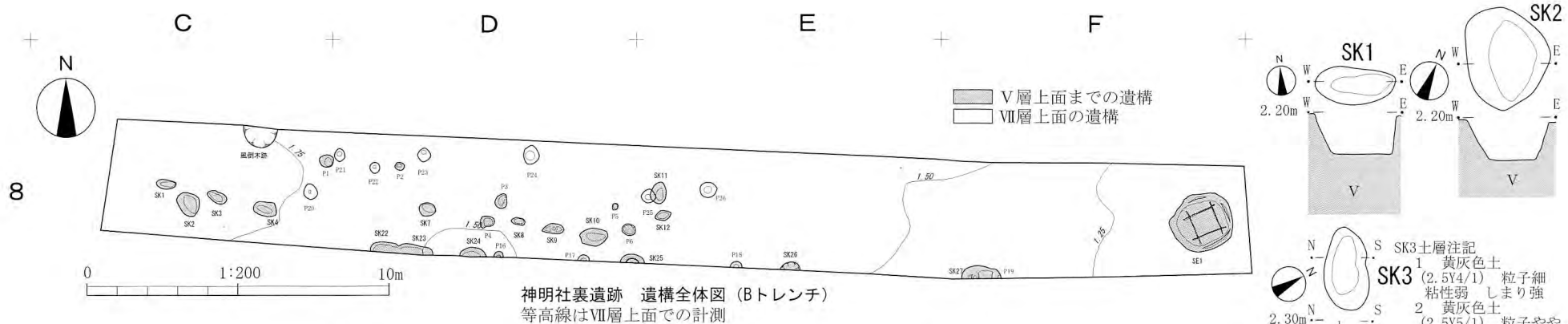


図24 神明社裏遺跡 遺構実測図2 (Bトレンチ)

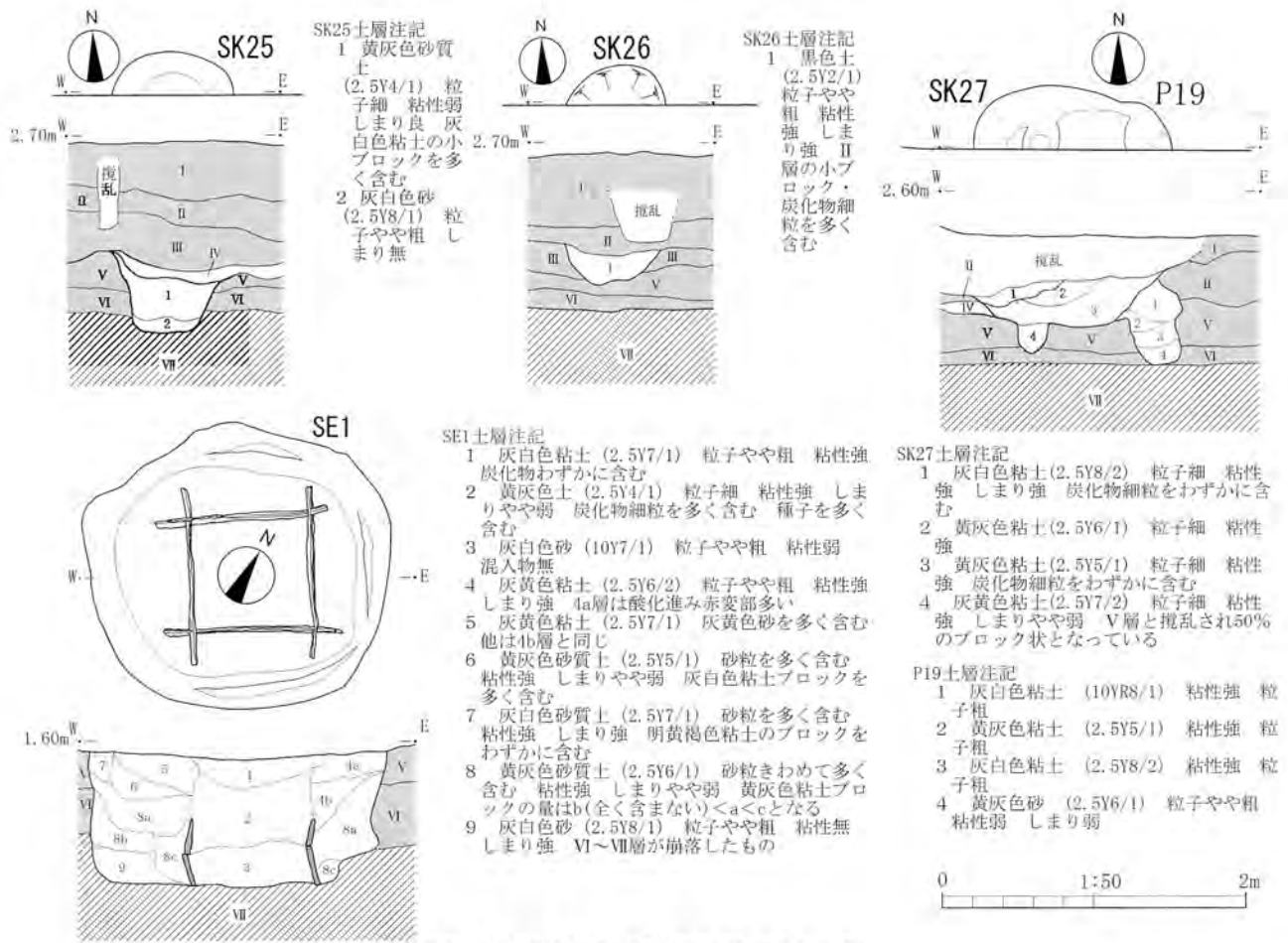


図25 神明社裏遺跡 遺構実測図3 (Bトレンチ)

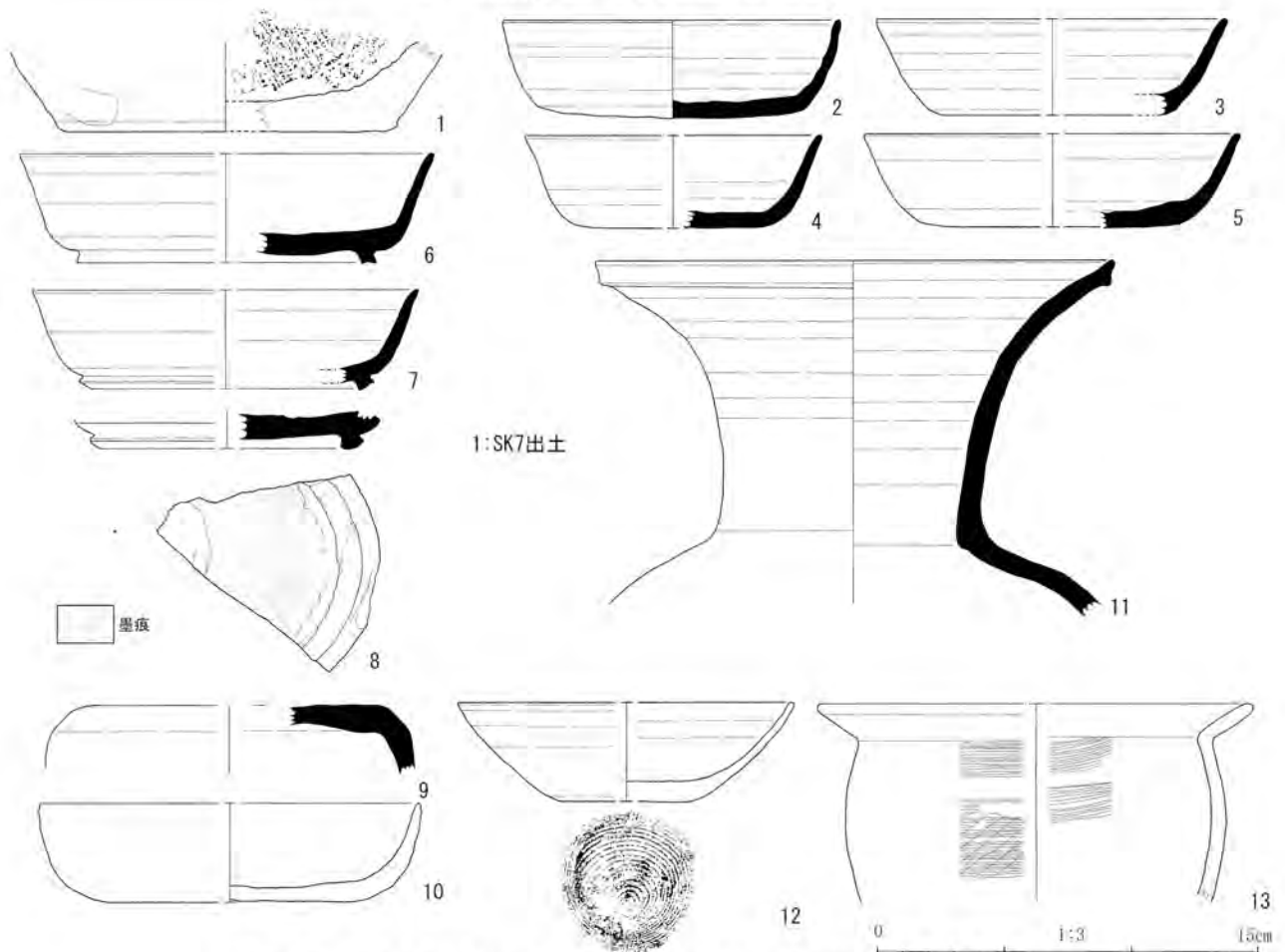


図26 神明社裏遺跡 遺構出土遺物 (SK7) 及び遺構外出土遺物I (須恵器・土師器)

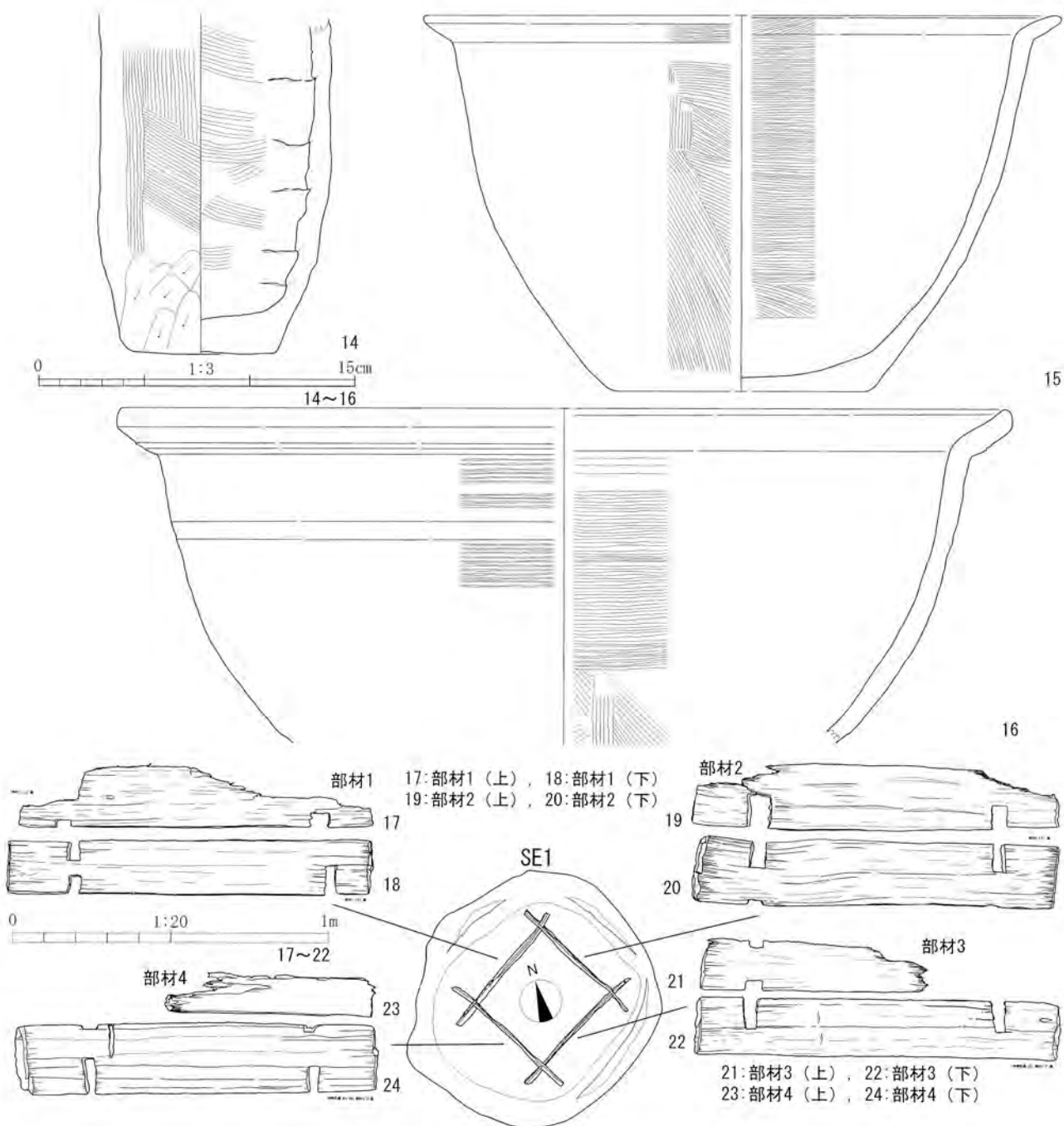


図27 神明社裏遺跡 遺構外出土遺物2(土師器)・木製品(井戸部材)

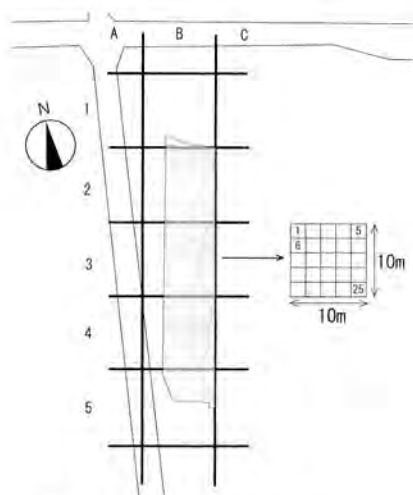


図28 城山遺跡調査区設定状況

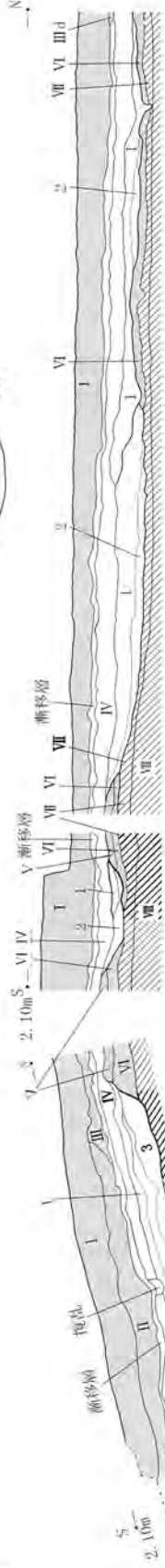
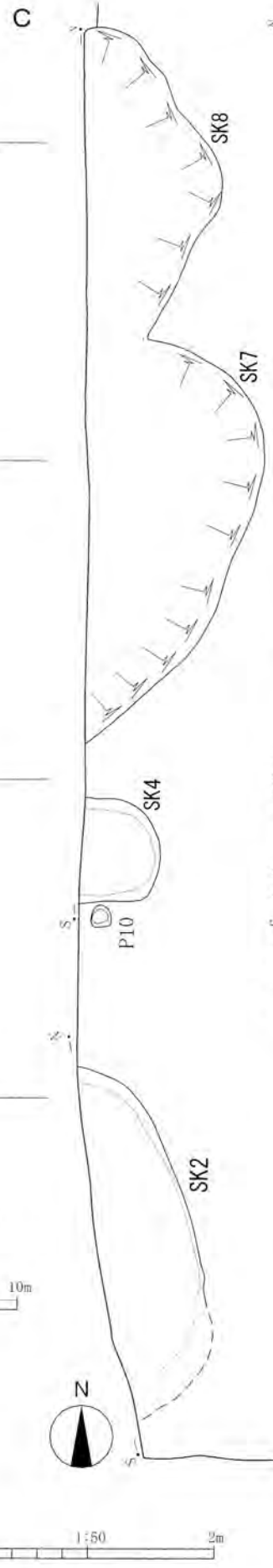
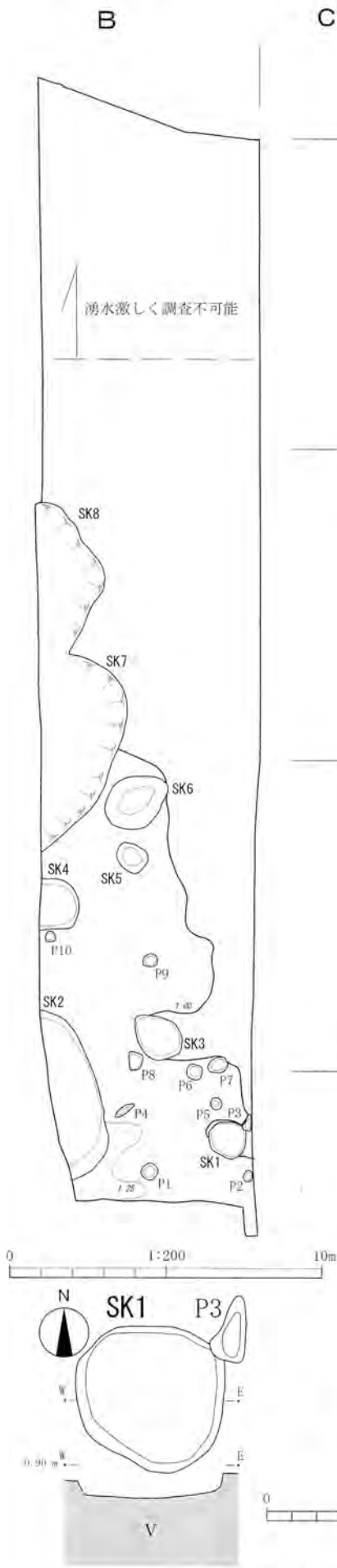


2

3

4

5



SK7土層注記
 1 黒色砂 (7.5YR2/1) 粘性弱 しまり強 植物質を比較的多く含む 粗砂 (径0.5mm程度)
 2 黒褐色砂 (5YR2/1) 粘性1層よりも弱 しまり強 植物質を少量含む 粗砂 (径0.5mm程度)

SK8土層注記
 1 黒褐色砂 (7.5YR3/2) 粘性VI層よりも弱 しまり強 植物の根を少し含む 粗砂 (径0.5mm程度)
 2 にぶい黄褐色砂 (10YR4/3) しまり強 粘性I層よりも弱 粗砂 (径0.5mm程度)

SK4土層注記
 I 極暗褐色砂 (7.5YR2/3) 粘性無 しまり強 粒子細
 2 暗褐色砂 (7.5YR3/3) 粘性無 しまりやや強 粒子細
 3 暗褐色砂 (5YR3/3) 粘性無 しまり細く、層より細く、

SK2土層注記
 1 黒褐色砂 (7.5YR2/2) 粘性無 しまりやや強 粒子細
 2 極暗赤褐色砂 (5YR2/3) 粘性無 しまり強 粒子細
 3 暗褐色砂 (5YR3/3) 粘性無 しまり強 粒子細

I~VII 図2参照
 VIII 砂 明灰黄色 砂丘基盤層

図29 城山遺跡 遺構全体図・遺構実測図 (SK1ほか)

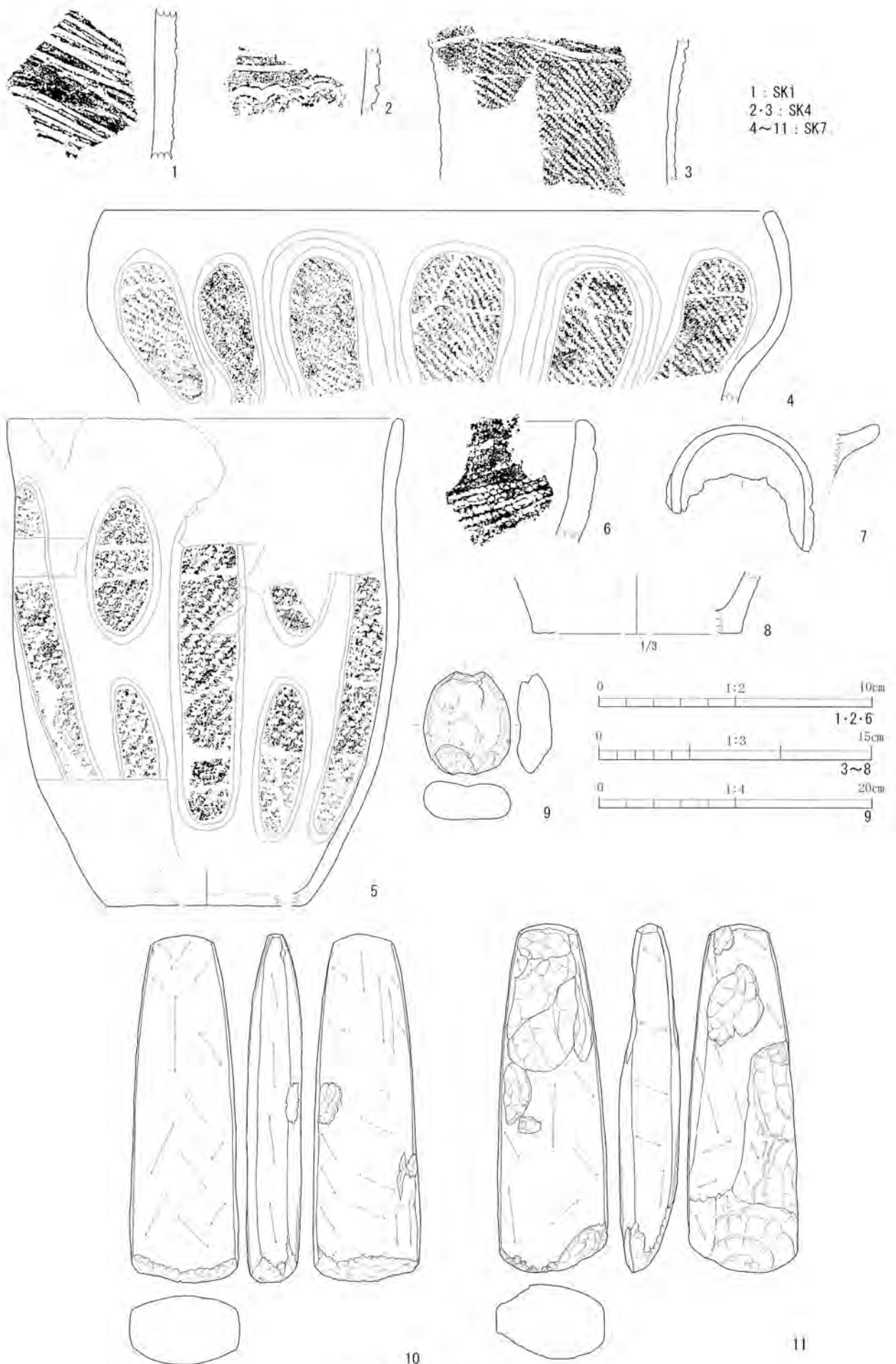


图30 城山遺跡 遺構出土遺物

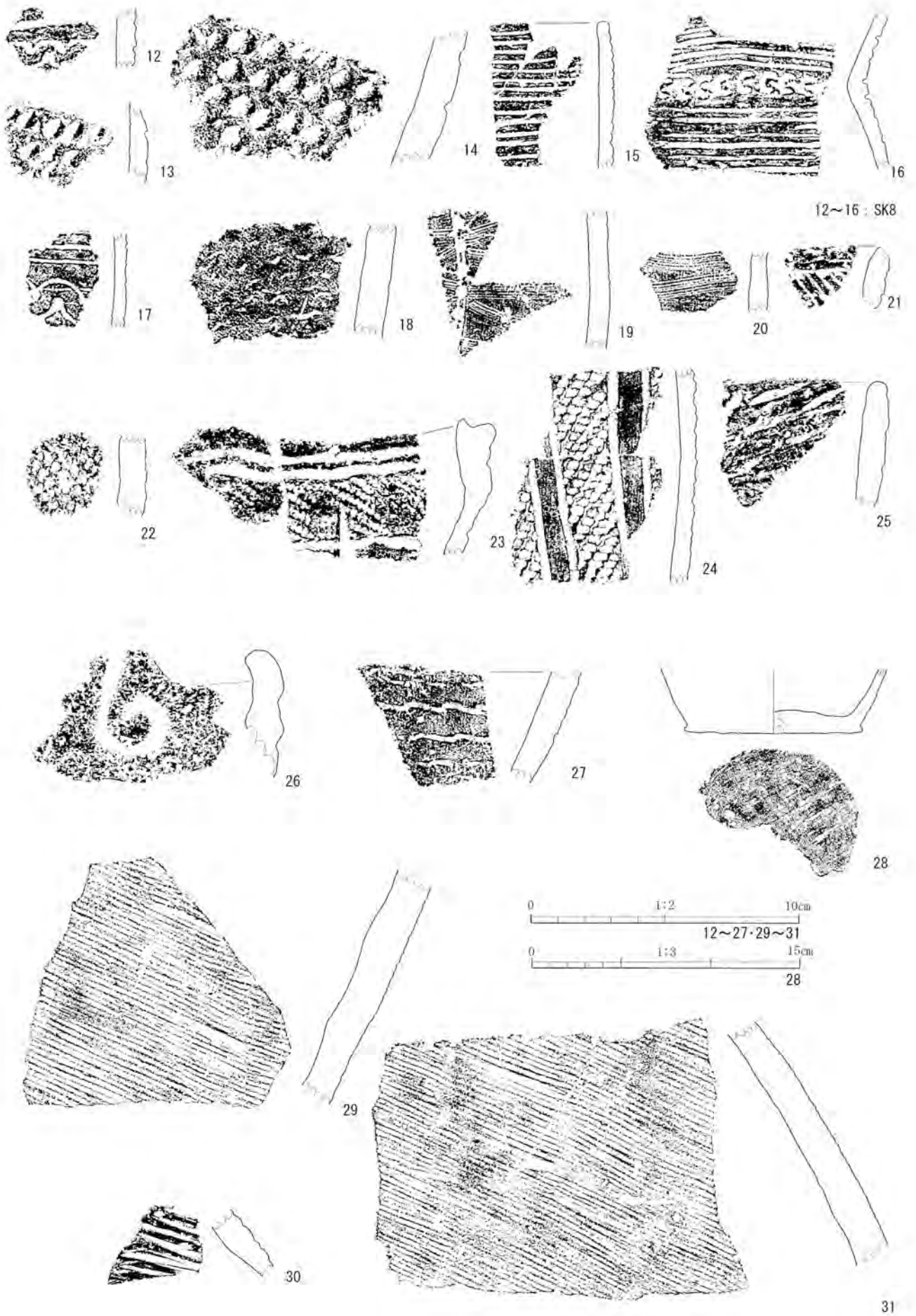


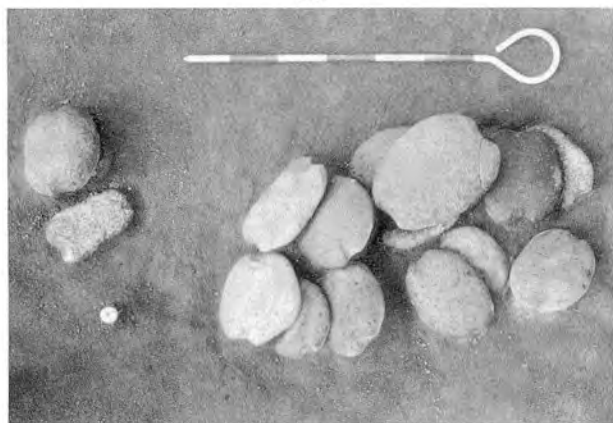
圖31 城山遺跡 遺構外出土遺物



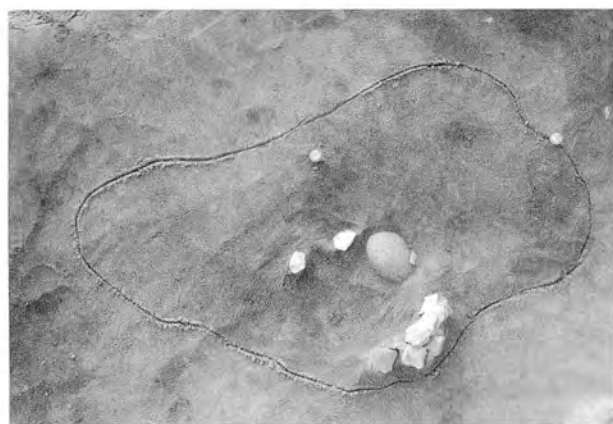
笹山前遺跡遠景（南西から）



SX3



SX4



SK185



SK156



SK155



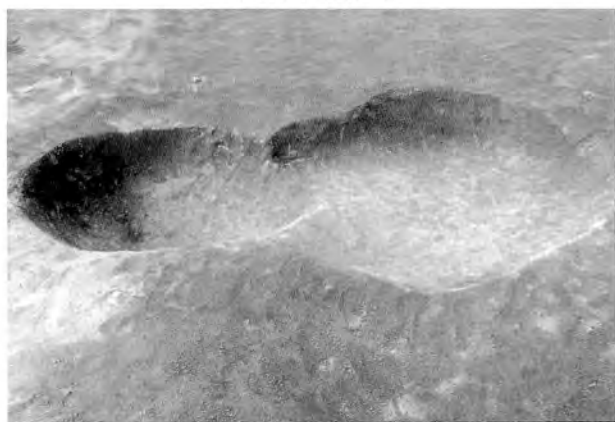
SK117（手前）・SK114（奥）



SK115



SK140（南西から）



SK156（左）・SK155（右）

写真図版1 笹山前遺跡遠景
笹山前遺跡の遺構1 ほか



SB2 (南から)



SX1 (南から)



SX2 (北から)



SB3 (南から)



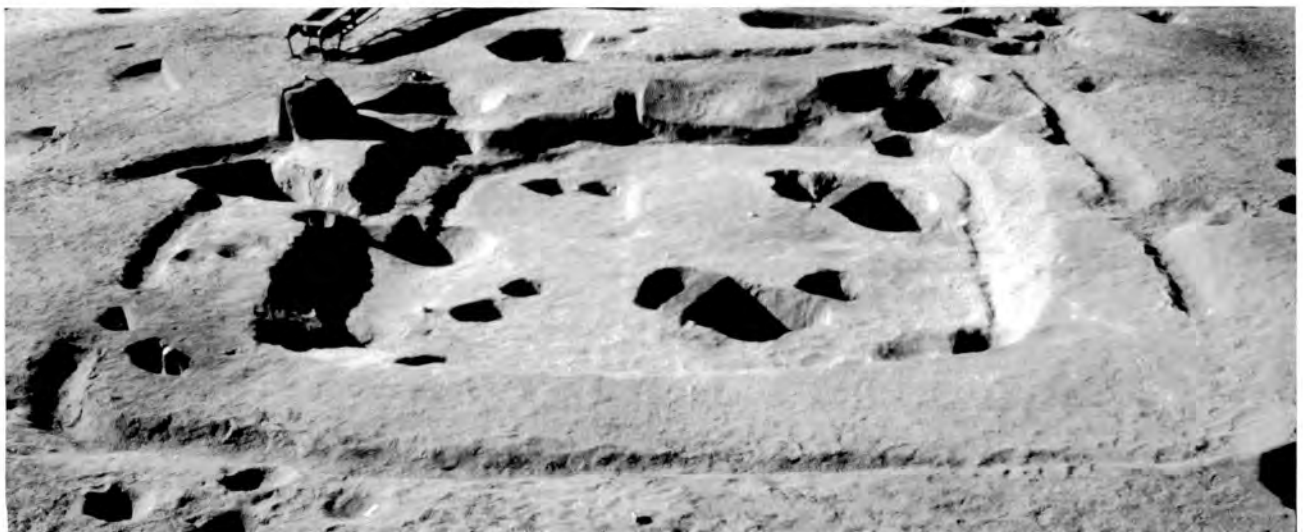
SE1 (東から)



SK149 (手前)・SK150 (奥)

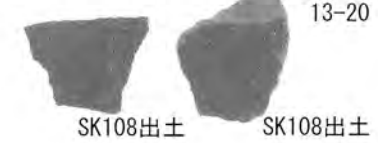
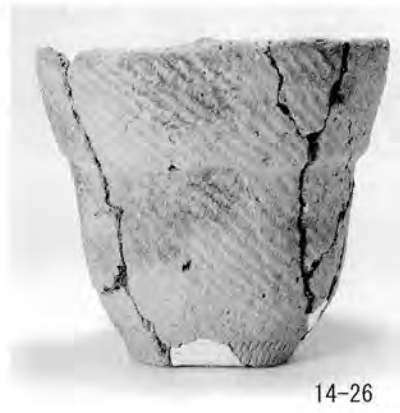
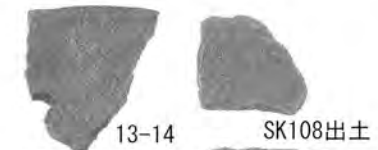
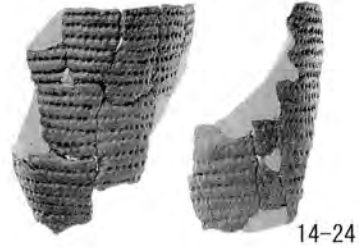
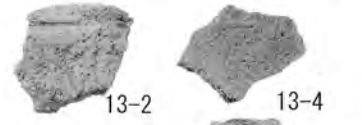
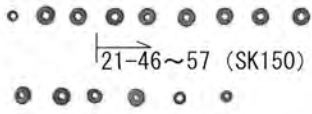
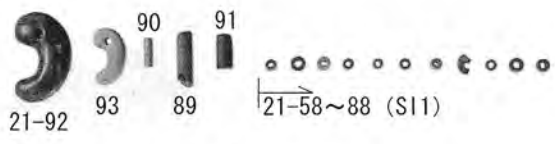


SE3・SB1 (北西から)

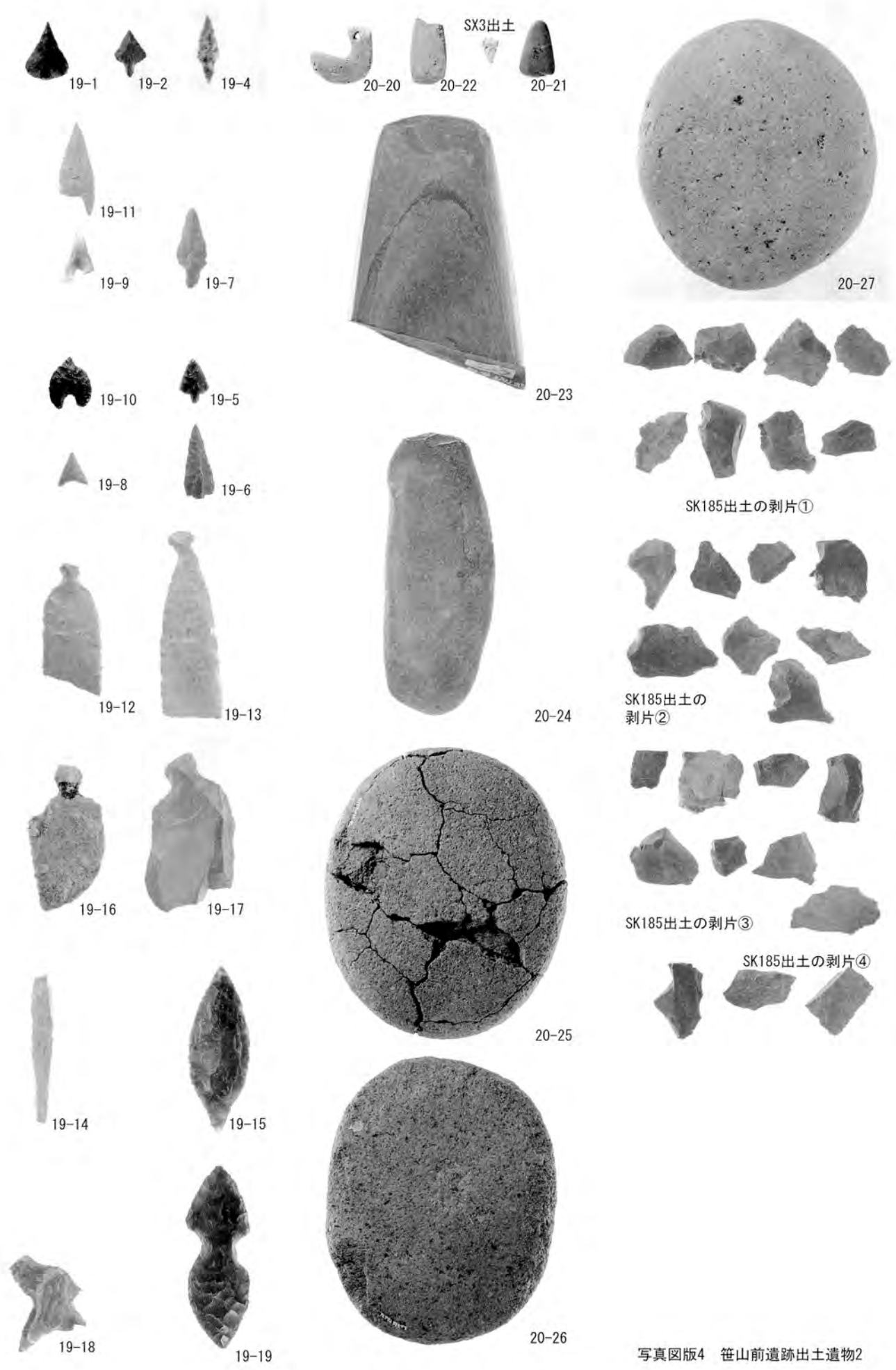


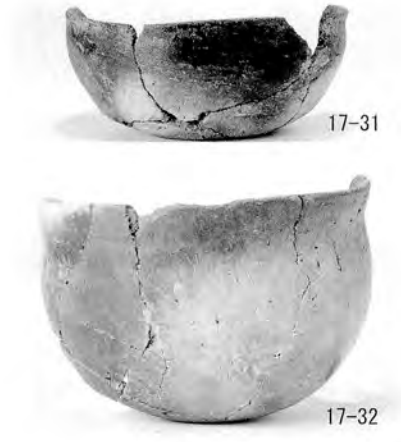
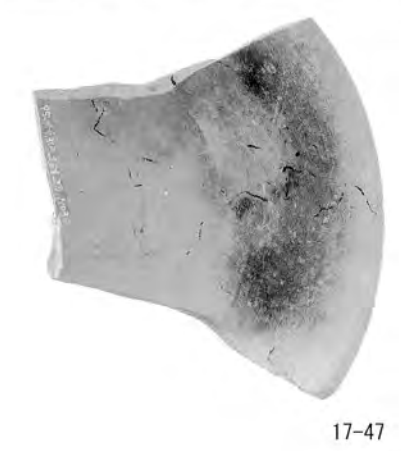
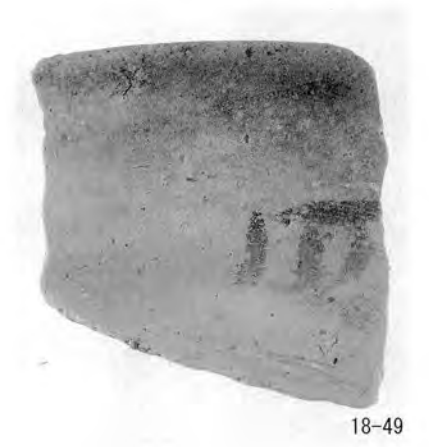
S11・SB4 (南東から)

写真図版2 笹山前遺跡の遺構2



写真図版3 笹山前遺跡出土遺物1





写真図版5 笹山前遺跡出土遺物3



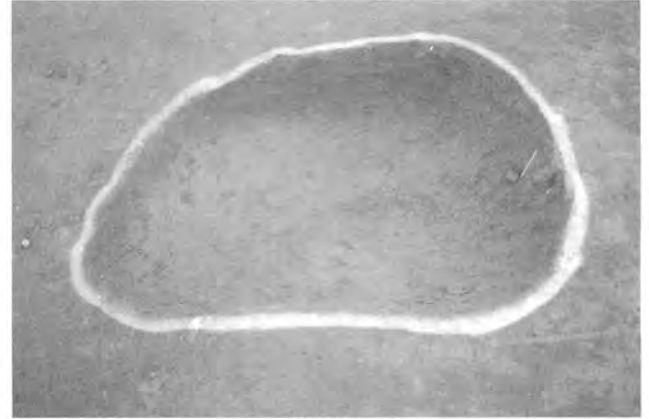
調査地近景（北西から）



Aトレンチ V層上面までの遺構調査終了状況（南西から）



P7（左）及びSK14（右）



SK15



Aトレンチ VII層上面の遺構調査終了状況（南から）



SK16・17



SK19



SK20



SK21



BトレンチV層上面までの遺構 (8C・8Dグリッドを東から)



SK8



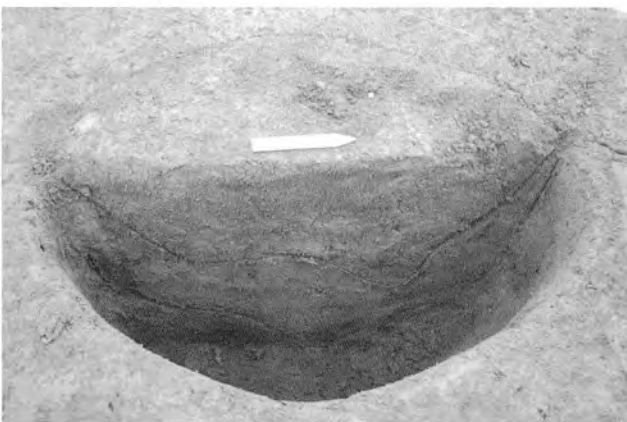
SK1



SK4



SK10

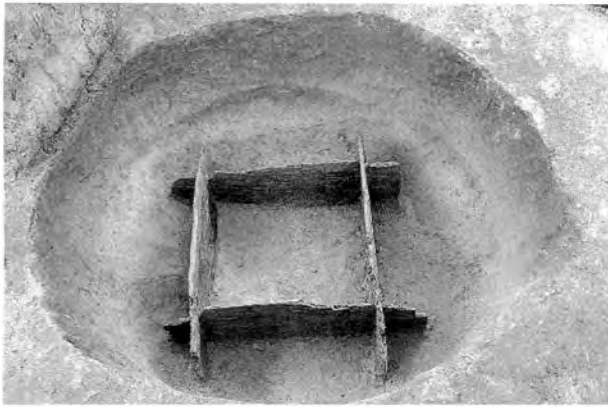


SK7



26-1

SK7出土遺物



SE1完掘状況（西から）



SE1セクション



筒状土製品（図27-14）出土状況



27-14



26-2



26-10



26-12



26-8



26-11



26-13



27-16



27-15



写真図版8 神明社裏遺跡の遺構3及び出土遺物



城山遺跡遠景（西から）



調査地近景（北から）



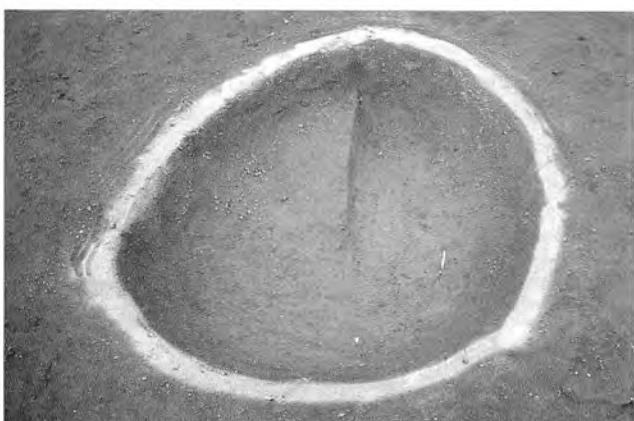
SK1及びびP3・5・7



SK2



SK3（右）及びびP8（左）



SK5

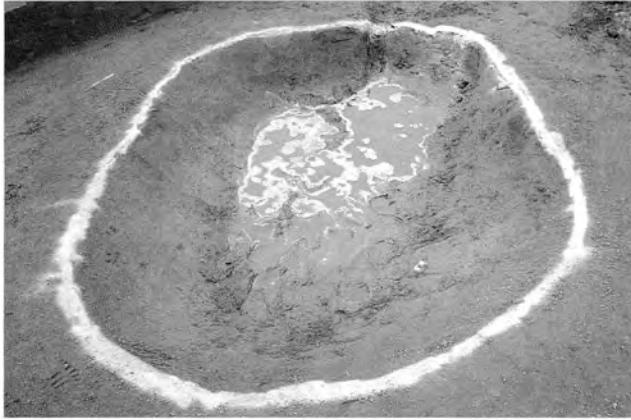


SK4（右）及びびP10（左）



SK4 遺物出土状況（縄文土器 図30-5）

写真図版9 城山遺跡調査地の景観ほか
城山遺跡の遺構1



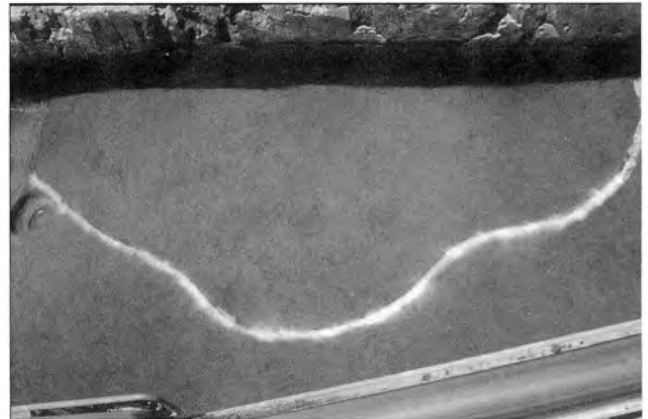
SK6



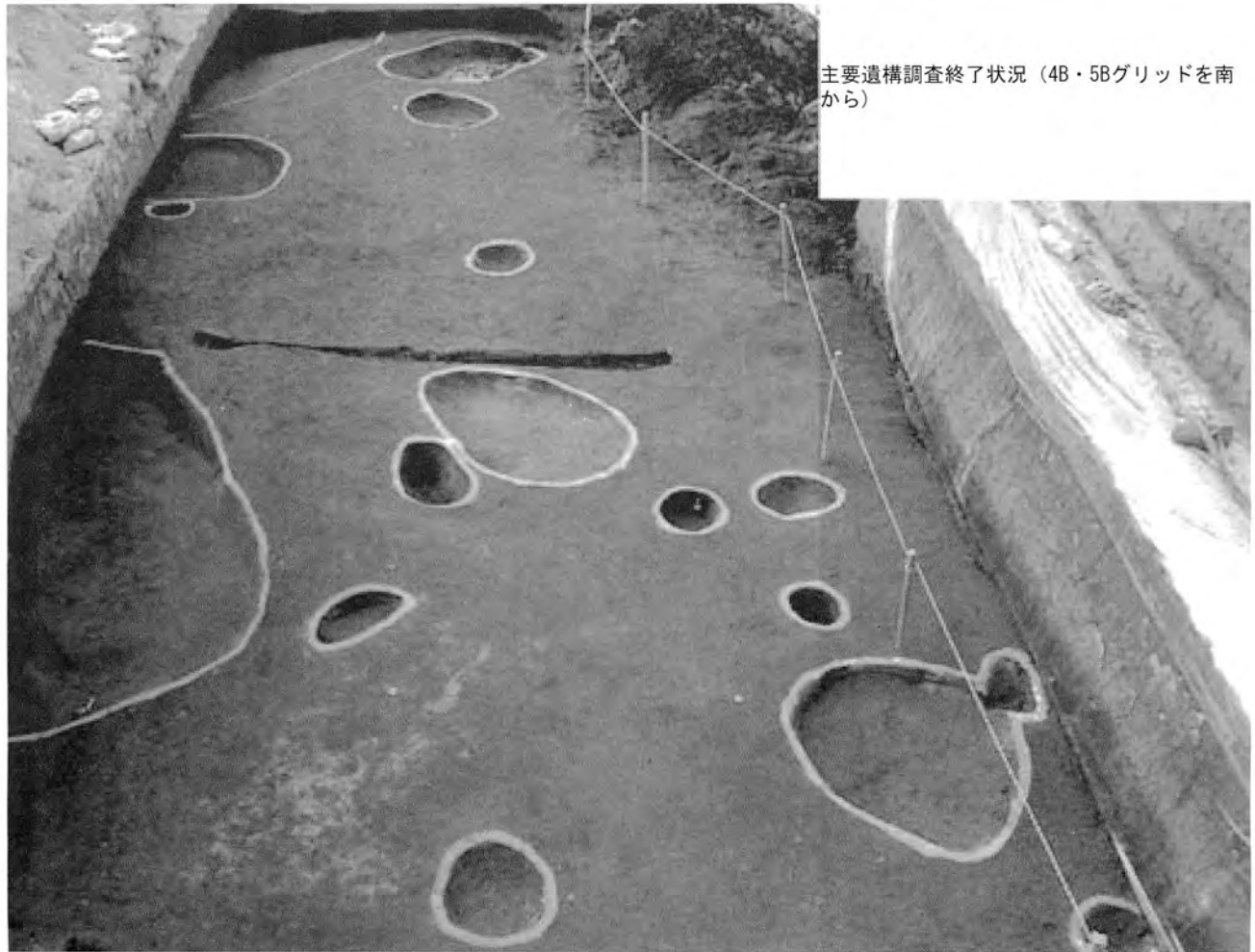
SK7-8 遺物出土状況(南から)



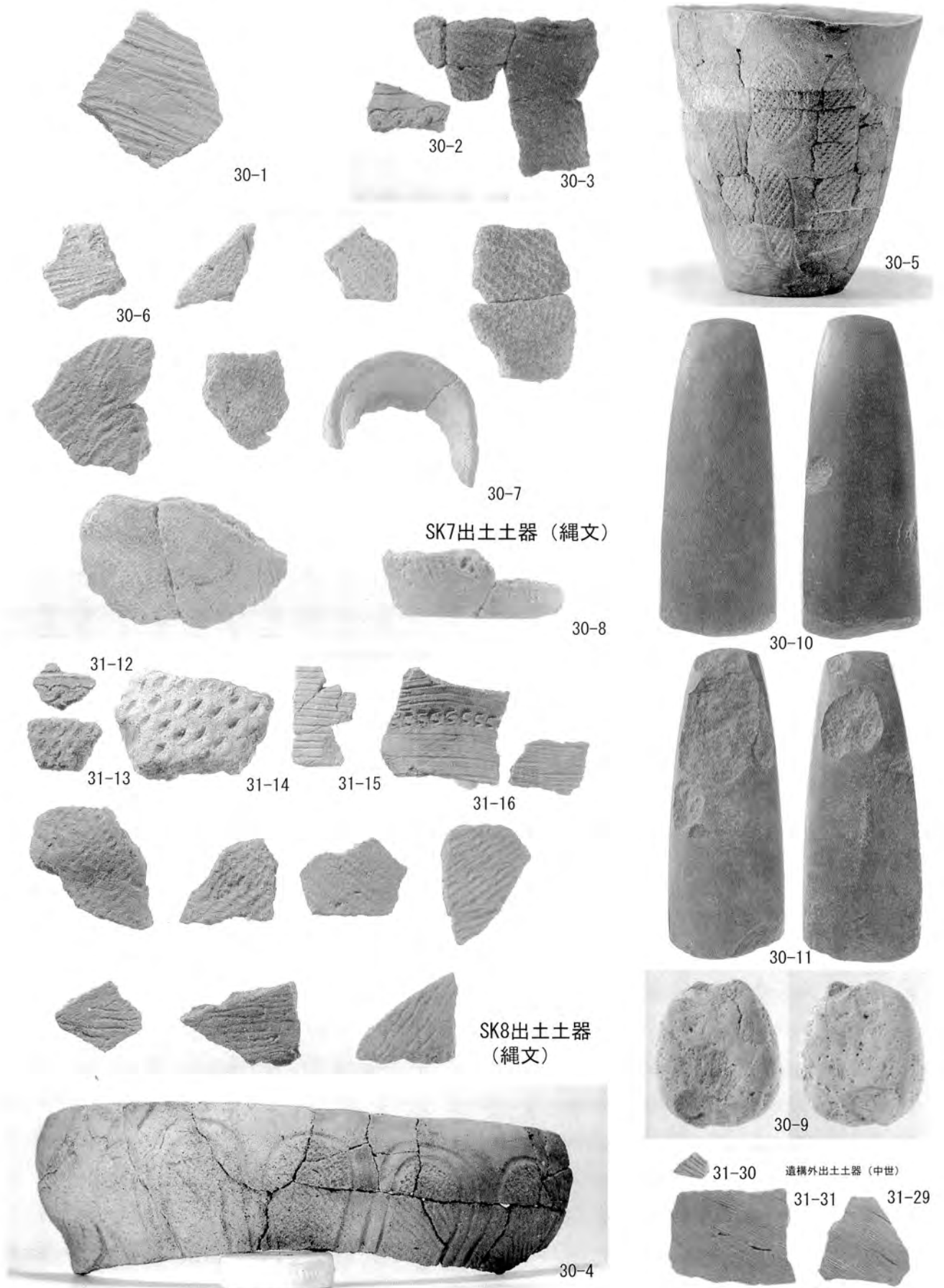
SK7



SK8



主要遺構調査終了状況 (4B・5Bグリッドを南から)



写真図版11 城山遺跡出土遺物

笹山前遺跡 遺構出土遺物観察表(縄文土器)

図版番号	図示番号	器種	出土遺構	出土層位	遺存	胎土	成形調整等	備考
13	1	深鉢	SK143	1	胴部小片	にぶい橙色 φ1mm前後の小礫, 植物繊維を含む	縄文RL	
	2	深鉢	SK110	1	口縁小片	にぶい黄橙色 長石, 礫を含む	沈線	
	3	深鉢	SK110	1	胴部小片	橙色 長石を含む	縄文LR	
	4	深鉢	SK110	1	胴部小片	にぶい橙色 凝灰岩, 長石を含む	縄文LR	
	5	深鉢か	SK104	1	底部小片	にぶい橙色 長石, 石英, 凝灰岩, 雲母, φ1mm程度の小礫を含む 焼成良好	底部に廉状圧痕	
	6	深鉢	SD10	1	口縁部片	にぶい黄橙色 長石 φ1mm程度の砂礫 金雲母 海綿骨針を含む	羽状縄文	外面にスス付着
	7	深鉢	SK108	1	口縁部小片	灰黄褐色 小礫, 金雲母を含む	RL 縄文	
	8	深鉢	SK108	不明	底部小片	にぶい赤褐色 小礫を含む	瓜形文	
	9	深鉢	SK108	9	口縁部小片	にぶい橙色 凝灰岩, 石英, 雲母, φ1~5mmの小礫を含む	縄文RL?	外面にスス付着
	10	深鉢	SK108	1	口縁部小片	にぶい黄橙色 長石を含む	外面沈線+隆線 内面ミガキ	
	11	深鉢	SK108	1	口縁部小片	黄灰色 長石を含む	外面沈線+隆線 内面ミガキ	
	12	深鉢	SK108	1	胴部小片	黄灰色 長石を含む	外面沈線+隆線 内面ミガキ	
	13	深鉢	SK108	4a	胴部小片	にぶい黄橙色 長石を含む	外面沈線+隆線 内面ミガキ	
	14	深鉢	SK108	9	口縁部小片	にぶい橙色 金雲母, 砂粒を含む 焼成良好	縄文RL	
	15	深鉢	SK108	1	口縁部小片	黄褐色 多量の金雲母, 長石, 小礫を含む	縄文RL	
	16	浅鉢	SK108	4a	胴部小片	にぶい黄橙色 長石を含む	外面沈線+隆線 内面ミガキ	内外面とも劣化
	17	深鉢	SK108	1	小片	橙色 少量の金雲母, 多量のφ1.0~2.3mmの砂礫を含む 粒子全体に粗い 焼成やや不良	磨消縄文LR+沈線	
	18	深鉢	SK108	9	胴部小片	明褐色 凝灰岩, 雲母, φ2mm程度の長石, 小礫を含む 焼成やや不良	縄文LR+沈線	
	19	深鉢	SK108	2	胴部小片	明黄褐色 φ1mm以下の長石, 金雲母, 砂礫を含む	外面ハケ状の工具でナデ	
	20	深鉢	SK108	9	胴部小片	にぶい黄橙色 長石, 雲母, 石英, φ1mm程度の小礫を含む 焼成良好	外面ナデ後ハケ状工具でナデ	
	21	深鉢	SK220	1	胴部小片	浅黄橙色 凝灰岩, 長石, 雲母を含む	沈線ほか	
	22	深鉢	SK120	1	口縁部小片	褐灰色 金雲母を含む	縄文LR	口縁部から内面にスス付着
	23	深鉢	SK121	1	胴部小片	にぶい橙色 金雲母, 長石を含む	沈線	

笹山前遺跡 遺構外出土遺物観察表(縄文土器)

図版番号	図示番号	器種	出土位置(グリッド)	出土層位	遺存	法量(cm)			胎土	成形調整・文様	備考
14	24	深鉢	2G17	VI	口縁1/2 底部小片	口径	器高	底径	にぶい黄褐色 金雲母, φ1~2mm前後の小礫, 植物繊維を多量に含む	外面連続刺突 内面粗いヨコナデ	
	25	深鉢	3J5	V, VI	ほぼ完形	口径	器高	底径	黄灰色 φ3~5mmの中礫, 多量のφ1~2mmの小礫, 植物繊維を含む 粒子粗い	外面縄文RL	
	26	深鉢	4K2	V	ほぼ完形 口縁部のみ1/3欠	口径	器高	底径	にぶい黄褐色 φ0.5~4mmの小礫 長石 凝灰岩 繊維	外面斜縄文+ナデ+瓜形文 内面ナデ	内面上部にスス付着
	27	深鉢	4K7	VI	完形(底部の一部欠)	口径	器高	底径	灰褐色 多量のφ1mm前後の小礫, 金雲母を含む	半截竹管状工具による連続刺突, コンパス文など	

図版番号	図示番号	器種	出土位置 (グリッド)	出土層位	遺存	法量(cm)				胎土	成形調整・文様	備考
14	28	深鉢	4G6	I	口縁部小片					橙色 φ1~3mmの砂粒, 長石を含む 粒子粗い	半隆起線文+瓜形文	
	29	深鉢	4F19	V	胴部小片					にぶい黄橙色 φ3mm前後の小礫, 凝 灰岩, 金雲母を含む	外面半截竹管の押引 内面ナデ	内外面の一部にスス附着
	30	深鉢	3G20	I	口縁部突起状 装飾	最大 長7.9	最大 幅4.8	最大 厚2.8		明灰黄色 石英 焼成良好	全体に丁寧なナデ	
	31	深鉢?	4J8	V	口縁小片					外面灰褐色 内面浅黄色 φ1mm前後 の小礫多量に含む 金雲母	外面沈線 内面ナデ	
	32	壺	4K15	V	ほぼ完形 (口 縁欠)	口径 3.9	器高 11.4	胴部 最大 径12.3	底径 5.1	明黄褐色 粒子細かい	体部縄文RL 頸部ミガキの後半 截竹管の押引	土器内にペンガラ塊(乾燥状 態で301.05g ただし土を含 む)

笹山前遺跡 遺構出土遺物観察表(古墳時代土師器)

図版番号	図示番号	器種	出土遺構	出土層位	遺存	法量(cm)				胎土	成形調整	備考
15	1	甕	SK57	1	口縁部1/6	口径13.6	器高5.1			灰褐色 石英, φ3mm以下の小礫含む		
	2	壺	P156	1	体部底部ほぼ完 形 口縁部1/6	口径13.6	器高18	底径3.4		にぶい黄褐色 長石, 雲母を含む 焼 成良好	外面ヘラミガキ 内面入念なナデと軽いハケ	外面にスス附着
	3	甕	SK140	1	口縁部1/4 胴 一部	口径22.4	器高9.9			浅黄橙色 凝灰岩, 長石, 金雲母を含 む 焼成不良	内外面ハケ	
	4	甕	SK140	1	完形	口径12.8	器高12			浅黄橙色 凝灰岩, 長石, 石英を含む 粒子粗い	外面ハケ	内外面に赤彩 口縁の一部~ 体部外面にスス附着
	5	高坏	SK140	1	坏部のみ1/4		器高4.05			淡橙色 長石, 石英, 雲母を含む 焼 成良好	内外面ミガキ(内面特に入念)	
	6	高坏	SK140	1	坏部のみ1/4		器高4.2			橙色 φ3mmの小礫, 長石, 石英, 雲母 を含む 焼成良好	内外面ヘラミガキ	
	7	高坏	SK140	1	脚部のみ		器高9.75	底径12.9		橙色 長石, 凝灰岩を含む 焼成良好	外面ヘラミガキ	
	8	鉢か	SK155	1	1/6	口径16.6	器高2.9			浅黄橙色 長石, 石英, 小礫を含む 焼成良好	内面かるいミガキ	内外面に赤彩
	9	鉢	SK155	1	口縁1/6 底部 ほぼ完	口径14.4	器高5.5			にぶい黄褐色 φ2mm前後の小礫, 凝 灰岩, 多量の石英, 少量の雲母を含む	内外面ヘラミガキ 口縁ナデ	底部外面の一部にスス附着
	10	碗か	SK155	1	口縁一部1/3	口径16.6		底径7.2		黒褐色 凝灰岩, 長石, 小礫を含む	ヘラミガキ	内外面黒色
	11	甕	SK156	2	底部完 体部一 部		器高8.1	底径2.8		浅黄褐色 凝灰岩, 砂粒, 長石, 石 英, 雲母, φ2mm前後の小礫を含む	外面ハケ 内面ハケの後ナデ?	
	12	高坏	SK126	1	坏部小片					にぶい橙色 赤色粒, 凝灰岩, φ1~2 mmの小礫を含む	内面ミガキ	
	13	壺	SK211	2	口縁部1/6	口径16.8	器高5.4			浅黄褐色 石英, 長石, 凝灰岩, 雲 母, 赤色粒を含む 焼成やや不良	外面ナデ	

図版 番号	図示 番号	器種	出土 遺構	出土 層位	遺存	法量(cm)			胎土	成形調整	備考
						口径	器高	最大径			
15	14	壺	SK14	1	底部1/2	口径	器高3.3	最大径1.8	灰黄褐色 凝灰岩, 長石を含む	内外面粗いヘラミガキ	内面にスス附着
	15	甕	SK144	1	2/3	口径16.8	器高26.5	底径5.7	にぶい黄橙色 石英, 凝灰岩, φ3mm前後の小礫を含む	内外面ハケ	歪みが大きい 外面上半分にスス附着
	16	鉢か	SK144	1	底体部一部		器高6.5		外面にぶい黄橙色 φ2mm前後の小礫, 多量の凝灰岩, 少量の長石及び石英を含む	外面ヘラミガキ 内面ヘラミガキ	外面の一部にスス附着 内面黒色
	17	鉢	SK145	1	2/3	口径13.5	器高6.1		橙色 長石, 凝灰岩を含む	内面ヘラミガキ	内面黒色
	18	甕	SK145	1	口縁部5/12 体部3/4 底部なし	口径15.05	器高11.1		にぶい黄橙色 凝灰岩, 雲母, 石英, φ3mm程度の長石を含む 焼成良好	内外面ナデ後ハケ	内外面にスス附着
16	19	甕	SK145	1	口縁部1/3 体部一部	口径17.1	器高14.3		黄褐色 長石, 凝灰岩を含む	内外面ハケ	
	20	甕	SK145	1	底部欠損	口径16.2	器高19.3		黄褐色 φ1mm前後の長石, 凝灰岩を含む	内外面にハケ	内外面にスス附着
	21	甕	SK145	1	1/2	口径18	器高26	底径5.3	浅黄橙色 φ1mm程度の長石, 凝灰岩, 石英, 多量の黒雲母を含む 焼成良好	外面ハケ 体下部にヘラケズリ	外面にスス附着
	22	甕	SI1	1	口縁部一部欠 ほぼ完形	口径14.4	器高13.8		にぶい黄橙色 凝灰岩, 雲母, 小礫を含む	外面粗いナデ 内面ヘラケズリ	外面底部付近に1箇所布の圧痕か 外面口縁から体部の一部にスス附着
	23	甕	SI1	1	体部 底部完形		器高23.3	底径5.6	にぶい黄橙色 凝灰岩, 雲母, φ3mm程度の長石, 小礫を含む 焼成やや不良	内外面ハケ 底部ヘラケズリ	内外面にスス附着
	24	甕	SI1	1	完形	口径19.5	器高16.2	底径2.9	浅黄橙色 φ2mm程度の小礫, 凝灰岩, 石英, 黒色粒を含む	口縁部ナデ 頸部付根ハケ 内面ハケ 体外部ハケ 底部ヘラケズリ	
	25	甕	SI1	2, 3	口縁付近1/4	口径17.4	器高8.8		灰黄色 φ1~2mm以上の小礫を含む	外面ハケ 口縁部内外面ミガキ	スス附着
	26	甕	SI1	2	1/6	口径13.5	器高6		にぶい黄橙色 金雲母, 凝灰岩を含む	外面ハケ	外面にスス附着
	27	甕	SI1	1, 2, 3	口縁1/3 体部一部	口径32.9	器高17.5		にぶい黄褐色 海綿骨針, 凝灰岩, 砂粒を含む	内外面ハケ	
17	28	鉢	SI1	1	1/3	口径14.4	器高5.9		にぶい黄褐色 凝灰岩, φ1mm前後の小礫を少量含む	内外面ヘラミガキ	内外面の一部にスス附着
	29	鉢	SI1	1	口縁部のみ1/6	口径15.4	器高5.2		にぶい黄褐色 φ1~3mmの小礫を含む	外面にスス附着 内面黒色	
	30	鉢	SI1	3		口径14	器高6.4	底径3.4	にぶい黄褐色 金雲母, 長石, 凝灰岩を含む 焼成良好	内外面ヘラミガキとナデ	内面黒色
	31	鉢	SI1		2/3	口径13.4	器高5.7	底径6	にぶい黄褐色 φ1mm前後の小礫, 長石, 凝灰岩を含む	内外面ヘラミガキとナデ	内面黒色
	32	鉢	SI1		1/2	口径13.5	器高9.6	底径3.6	灰黄褐色 凝灰岩, 長石を含む	外面一部ハケ 内外面ヘラミガキ	内面黒色

図版 番号	図示 番号	器種	出土 遺構	出土 層位	遺存	法量(cm)			胎土	成形調整	備考
						口径	器高	底径			
17	33	鉢か	SI1	3	坏部1/6	口径21			橙色 φ1mm前後の長石、金雲母を含む	内外面ミガキ	
	34	甕か	SI1	1	口縁1/8	口径16	器高3.7		外面灰白色 内面にぶい黄橙色 長石、石英、海綿骨針を含む	外面ハケ後ヘラミガキ 内面ハケ	
	35	高坏	SI1	1	坏部	口径17.4	器高3.4		にぶい黄橙色 石英、海綿骨針を含む	内外面ハケ 内面ミガキ	内面にスス付着 内面黒色
	36	高坏	SI1	2, 3	脚部のみほぼ完形		器高9.9	底径11.85	浅黄橙色 石英、長石、雲母、φ1mm程度の小礫を含む	輪積痕あり ヘラミガキ	
	37	高坏	SI1	1	坏部		器高2.2		橙色 金雲母、長石、石英を含む	内外面ミガキ	
	37	高坏	SI1	1, 2	坏部小片		器高3.1		にぶい黄橙色 凝灰岩、長石を含む	外面ミガキ	
	38	高坏	SI1	1	脚部1/3		器高6.8	底径10	にぶい黄橙色 石英、海綿骨針、長石を含む	外面ハケ後ナデ 一部ミガキ	
	39	台付鉢	SI1	3	脚部1/3		器高7.4	底径9.4	にぶい黄橙色 凝灰岩、φ2mm以下の長石を含む 焼成良好	内外面ヘラミガキ	内面黒色
	40	壺	SI1	3	1/6	最大径11.4	器高5.7		浅黄橙色 φ1mm程度の長石、石英、金雲母、その他砂礫を含む	ロクロ成形 内外面の劣化著しく調整不明	外面に赤彩か
	41	甕	SK150	1	1/3	口径14.6	器高14.8	底径5.6	浅黄橙色 凝灰岩、金雲母、石英を含む	内外面ハケ	体部外面にスス付着
	42	鉢	SK150	1	2/3	口径15.2	器高6.15		浅黄橙色 少量の凝灰岩、φ2mmの小礫を含む	ヘラミガキ 底部ケズリとナデ	黒色土器
	43	鉢	SK150	1	口縁1/6 体底一部	口径14.9	器高7.2		にぶい黄橙色 石英、凝灰岩を含む	内外面ヘラミガキ	内外面口縁部に黒色処理 口縁に漆付着か(皮膜の残存)
	44	鉢	SK150	1	ほぼ完形	口径14.8	器高5	底径6.1	橙色 長石、少量の砂及び海面骨針を含む 粒子細かい 焼成良好	内外面ヘラミガキ 特に内面 底部にナデ	外面にタール状の黒色物質の 付着(漆か) 内面黒色
	45	蓋	SK150	1	完形	口径10.8	器高4.5		青灰色 長石、凝灰岩を含む 焼成良好	外面ロクロケズリとナ	
46	鉢	SK150	1	完形	口径11.95	器高8.9	底径0.8	にぶい橙色 長石、凝灰岩、石英、φ4mm程度の小礫を含む 焼成良好	内外面ヘラミガキ	内面黒色	

笹山前遺跡 遺構出土遺物観察表(奈良・平安時代の須恵器・土師器)

図版 番号	図示 番号	種別	器種	出土 遺構	出土 層位	遺存	法量(cm)			胎土	成形調整	備考
							口径	器高	底径			
17	47	須恵器	坏	SE1	2	1/6	口径14.4	器高3.9	底径10.0	灰色 凝灰岩を含む	底部回転ヘラ切り後ナデ	内面線刻あり「メ」か？ 内面スス付着
	48	須恵器	壺	SE1	1	底部1/6		器高8.4	底径9.5	灰色 多量のφ1mm前後の砂粒を含む	内面ロクロナデ	底部内面及び外面に自然釉
	49	土師器	墨書?	SX1	不明	口縁小片	口径13.7	器高3.4		にぶい橙色 砂粒、赤色粒を含む		体部外面に墨書「四」か
18	50	土師器	甕	SX2	10	口縁1/12	口径18.3	器高8.9		橙色 φ1mm前後の小礫、凝灰岩を含む	内外面ハケ	

図版番号	図示番号	種別	器種	出土遺構	出土層位	遺存	法量(cm)			胎土	成形調整	備考
18	51	土師器	甕	SX2	2	口縁一部 内部	口径18	器高13.3		にぶい黄橙色 石英, 長石, 多量のφ1mmの小礫を含む	内外面ハケ	
	52	土師器	鍋	SX2	2	口縁部	口径36.9	器高15.2		にぶい黄橙色 長石, φ1~2mm前後の小礫を含む	内面ハケ	外面にスス付着

笹山前遺跡 石器・石製品観察表

図版番号	図示番号	器種	出土遺構	出土位置	出土層位	遺存	寸法(cm, ただし重量はg)					成形調整	材質など	備考	
19	1	石鏃	SK75		1	基部欠損	最大長2.18	最大幅1.63	最大厚0.36		重量0.8		珪質頁岩	両面ピッチ付着	
	2	石鏃	SK115		1	完形	最大長1.79	最大幅1.22	最大厚0.3		重量0.4		珪質頁岩	SK115内面の同一石材と思われる碎片有	
	3	石鏃	SK186		1	完形	最大長2.56	最大幅1.5	最大厚0.44		重量1.2		珪質頁岩?		
	4	石鏃	SK189		1	完形	最大長2.57	最大幅1.86	最大厚0.49		重量0.8		玉髓	両面ピッチ付着	
	5	石鏃			3J22	攪乱	完形	最大長2.2	最大幅1.45	最大厚0.4		重量0.7		玉髓	
	6	石鏃			2D21	I	基部欠損	最大長3.44	最大幅1.4	最大厚0.53		重量1.8		珪質頁岩	ピッチ付
	7	石鏃			5J8	V	完形	最大長3.7	最大幅1.4	最大厚0.53		重量1.7		玉髓	
	8	石鏃			4F7	VI(VII上面)	完形	最大長1.56	最大幅1.4	最大厚0.28		重量0.4		玉髓	
	9	石鏃			3F19	III	脚部の一端と先端は欠損	最大長2.3	最大幅1.6	最大厚0.5		重量1		黒曜石	
	10	石鏃			5I16	V	完形	最大長2.37	最大幅1.98	最大厚0.39		重量1.4		黒曜石	
	11	石鏃			5F3	VI	脚部の一端は欠損	最大長4.3	最大幅1.6	最大厚0.49		重量1.9		流紋岩	
	12	石匙			4F15	V	一部欠?	最大長6	最大幅2.8	最大厚0.69		重量11.3		珪質頁岩	
	13	石匙			5J8	V	完形?	最大長8.6	最大幅2.75	最大厚0.7		重量15.7		珪質頁岩	
	14	石錘 角柱状石器			3E23	III	完形	最大長6.7+	最大幅1.1	最大厚0.9		重量9.1+		流紋岩	
	15	尖頭器			3G14	V	定型	最大長7.38	最大幅2.69	最大厚1.11		重量19.8		玉髓	
	16	石匙			3J3	V	完形	最大長6.57	最大幅3.5	最大厚0.65		重量13		珪質頁岩	つまみ部にピッチ付
	17	石匙			4G4	攪乱	一部欠?	最大長7	最大幅4	最大厚0.95		重量25.8	礫面残る	珪質頁岩	
	18	異形石器			4G13	I	一部欠	最大長2.1+	最大幅1.6+	最大厚0.3		重量5.6		流紋岩	X字状の形態か
	19	異形石器(糸巻形石器)			5F4	VI	先端欠損	最大長5.75	最大幅2	最大厚0.54		重量6.9		珪質頁岩	
20	20	石製装飾品	SX3		1	一部欠損	最大長3.9	最大幅4.5	最大厚0.76		重量15.8	穿孔は表より1回 裏より2回	滑石	胸飾りか 表裏共擦痕認められる	
	21	小型磨製石斧	SX3		1	完形	最大長4	最大幅2.49	最大厚0.6		重量9.8	片刃	蛇紋岩		
	22	小型磨製石斧	SX3		1	ほぼ完(基部欠損)	最大長4.68	最大幅2.55	最大厚0.69		重量13	片刃	蛇紋岩	刃こぼれあり	
	23	磨製石斧			3P11	VI	刃部と胴部の一部欠損	最大長6.7+	最大幅4.3+	最大厚2		重量80.2+	擦痕顕著		
	24	磨製石斧未製品			4H9	攪乱	最大長9.2	最大幅3.7	最大厚1.8		重量94.2	偏刃かつ両刃		刃部幅2.78cm 基部は欠損か	

図版 番号	図示 番号	器種	出土 遺構	出土 位置	出土 層位	遺存	寸法 (cm, ただし重量はg)				成形調整	材質など	備考
							最大長	最大幅	最大厚	重量			
20	25	磨石・敲石		4L4	V		最大長15.3	最大幅11.9	最大厚4.4		重量 1,173.2+	安山岩	被熱
	26	磨石・敲石・凹石		5I8	V		最大長13.5	最大幅10.8	最大厚2.6		重量630	安山岩	磨石を敲石・凹石に転用
	27	磨石	SK185		1		最大長10.2	最大幅8.9	最大厚5		重量630	流紋岩	
	28	石錘	SX4		1		最大長9.9	最大幅8.25	最大厚4.15		重量499.3	安山岩	No.1
	29	石錘	SX4		1		最大長9.1	最大幅6.7	最大厚2.2		重量216.4	花崗岩	No.2
	30	石錘	SX4		1		最大長9.75	最大幅8.6	最大厚2.2		重量259.2	凝灰岩	No.3
	31	石錘	SX4		1		最大長8.45	最大幅8.1	最大厚2		重量187	安山岩	No.4
	32	石錘	SX4		1		最大長10.8	最大幅8.4	最大厚3.4		重量409	流紋岩	No.5
	33	石錘	SX4		1		最大長9.6	最大幅7.15	最大厚3.1		重量302.5	安山岩	No.6
	34	石錘	SX4		1		最大長8	最大幅7.8	最大厚2.45		重量224.7	流紋岩	No.7
	35	石錘	SX4		1		最大長8.66	最大幅7.25	最大厚2.19		重量194.1	安山岩	No.8
	36	石錘	SX4		1		最大長10.7	最大幅6.9	最大厚2.32		重量229	流紋岩	No.9
	37	石錘	SX4		1		最大長9.85	最大幅8.55	最大厚2.9		重量330.4	安山岩	No.10
	38	石錘	SX4		1		最大長 12.85	最大幅9.65	最大厚2.4		重量458.4	安山岩	No.11
	39	石錘	SX4		1		最大長9.7	最大幅8.45	最大厚2		重量270.4	安山岩	No.12
	40	石錘	SX4		1		最大長9.7	最大幅7.95	最大厚1.95		重量301.6	花崗岩	No.13
	41	石錘	SX4		1		最大長9.6	最大幅8.1	最大厚2.4		重量188.6	安山岩	No.14
42	石錘	SX4		1		最大長11.2	最大幅7.2	最大厚2.2		重量290	安山岩	No.15	
43	石錘	SX4		1		最大長12	最大幅9.85	最大厚2.4		重量425.1	安山岩	No.16	
44	石錘	SX4		1		最大長10	最大幅8.25	最大厚2.05		重量243.1	流紋岩	No.17	
45	石錘			3C11	V		最大長12.9	最大幅11.4	最大厚3.9		重量743.1	流紋岩	
21	46	白玉	SK150		2	完形	最大長0.33		最大厚0.2		重量0.03	滑石	
	47	白玉	SK150		2	完形	最大長0.47		最大厚0.21		重量0.07	滑石	
	48	白玉	SK150		2	完形	最大長0.41		最大厚0.17		重量0.03	滑石	
	49	白玉	SK150		2	完形	最大長0.47		最大厚0.23		重量0.07	滑石	
	50	白玉	SK150		2	完形	最大長0.47		最大厚0.22		重量0.06	滑石	
	51	白玉	SK150		2	完形	最大長0.47		最大厚0.26		重量0.08		
	52	白玉	SK150		2	完形	最大長0.47		最大厚0.23		重量0.06		
	53	白玉	SK150		2	完形	最大長0.45		最大厚0.19		重量0.07	滑石	
	54	白玉	SK150		2	完形	最大長0.47		最大厚0.25		重量0.09	滑石	
	55	白玉	SK150		2	完形	最大長0.47		最大厚0.27		重量0.1	滑石	
	56	白玉	SK150		2	完形	最大長0.47		最大厚0.31		重量0.12	滑石	
	57	白玉	SK150		2	完形	最大長0.33		最大厚0.17		重量0.03	滑石	
	58	白玉	S11		1~4	完形	最大長0.37		最大厚0.24		重量0.11	滑石	
	59	白玉	S11		1~4	完形	最大長0.43		最大厚0.2		重量0.06	滑石	

図版 番号	図示 番号	器種	出土 遺構	出土 位置	出土 層位	遺存	寸法 (cm, ただし重量はg)				成形調整	材質など	備考	
21	60	白玉	SI1		1~4	完形	最大長0.47		最大厚0.18		重量0.05		滑石	
	61	白玉	SI1		1~4		最大長0.43		最大厚0.14		重量0.02		滑石	
	62	白玉	SI1		1~4		最大長0.38		最大厚0.13		重量0.03		滑石	
	63	白玉	SI1		1~4		最大長0.39		最大厚0.22		重量0.02		滑石	
	64	白玉	SI1		1~4		最大長0.35		最大厚0.26		重量0.04		滑石	
	65	白玉	SI1		1~4	一部欠	最大長0.48		最大厚0.23		重量0.09		滑石	
	66	白玉	SI1		1~4	完形	最大長0.52		最大厚0.27		重量0.11		滑石	
	67	白玉	SI1		1~4	完形	最大長0.38		最大厚0.34		重量0.09		滑石	
	68	白玉	SI1		1	完形	最大長0.29		最大厚0.24		重量0.04		滑石	
	69	白玉	SI1		1	完形	最大長0.3		最大厚0.19		重量0.05		滑石	
	70	白玉	SI1		1	完形	最大長0.31		最大厚0.13		重量0.04		滑石	
	71	白玉	SI1		1	一部欠	最大長0.52		最大厚0.16		重量0.08		滑石	
	72	白玉	SI1		1		最大長0.29		最大厚0.18		重量0.04		滑石	
	73	白玉	SI1		1	完形	最大長0.3		最大厚0.19		重量0.04		滑石	
	74	白玉	SI1		1	完形	最大長0.38		最大厚0.19		重量0.04		滑石	
	75	白玉	SI1		1	完形	最大長0.3		最大厚0.16		重量0.03		滑石	
	76	白玉	SI1		3	完形	最大長0.3		最大厚0.24		重量0.03		滑石	
	77	白玉	SI1		3	完形	最大長0.39		最大厚0.27		重量0.07		滑石	
	78	白玉	SI1		3	完形	最大長0.33		最大厚0.22		重量0.05		滑石	
	79	白玉	SI1		3	完形	最大長0.33		最大厚0.25		重量0.05		滑石	
	80	白玉	SI1		3	完形	最大長0.4		最大厚0.22		重量0.06		滑石	
	81	白玉	SI1		3	完形	最大長0.35		最大厚0.21		重量0.04		滑石	
	82	白玉	SI1		1	完形	最大長0.39		最大厚0.28		重量0.06		滑石	
	83	白玉	SI1		1	完形	最大長0.35		最大厚0.25		重量0.05		滑石	
	84	白玉	SI1		3	完形	最大長0.3		最大厚0.14		重量0.02		滑石	
	85	白玉	SI1		3	完形	最大長0.34		最大厚0.16		重量0.03		滑石	
	86	白玉	SI1		3	完形	最大長0.35		最大厚0.17		重量0.04		滑石	
	87	白玉	SI1		3	完形	最大長0.5		最大厚0.23		重量0.09		滑石	
88	白玉	SI1		3	完形	最大長0.46		最大厚0.25		重量0.09		滑石		
89	管玉	SI1		1	一部欠	最大長1.4	最大幅0.35	最大厚0.35		重量0.37		滑石		
90	管玉		2E18		Ⅲ	完形	最大長0.75	最大幅0.2	最大厚0.2		重量0.06	両面穿孔	凝灰岩	
91	管玉	SI1		3	一部欠	最大長0.9	最大幅0.4	最大厚0.4		重量0.28		滑石		
92	勾玉	SI1				完形	最大長2.3	最大幅1.5	最大厚0.52		重量2.9		滑石	
93	勾玉				表採	完形	最大長1.5	最大幅0.8	最大厚0.4		重量0.5	片面穿孔	滑石	排土より採集
94	紡錘車	SI1		3			最大長3.5		最大厚1.15	孔径0.7	重量17.3		滑石	
95	砥石			3F6	Ⅲ		最大長4.9+	最大幅3.2	最大厚2.3		重量49.5+		泥岩	
96	砥石			3E10	Ⅱ		最大長6.1+	最大幅2.8	最大厚2.4		重量39.7+		泥岩	

図版 番号	図示 番号	器種	出土 遺構	出土 位置	出土 層位	遺存	寸法 (cm, ただし重量はg)				成形調整	材質など	備考	
							最大長	最大幅	最大厚	重量				
21	97	砥石		2E23	II		最大長8.8+	最大幅4.2+	最大厚3.7		重量148.2+		泥岩	
	98	砥石		3J23	攪乱		最大長8.6+	最大幅3.3	最大厚2.5		重量131.3+		泥岩	

神明社裏遺跡 遺構出土遺物観察表(中世)

図版 番号	図示 番号	種別・器種	出土 遺構	出土 層位	遺存	法量 (cm)		胎土	成形調整	備考
26	1	珠洲焼摺鉢	SK7	1	底部1/4	器高3.5	底径12.6	灰色 凝灰岩, 海綿骨針多く含む 焼成良好	内面に16条以上のおろし目	外面に指頭圧痕

神明社裏遺跡 遺構外出土遺物観察表(須恵器・土師器)

図版 番号	図示 番号	種別	器種	出土 位置	出土 層位	遺存	法量 (cm)			胎土	成形調整	備考
26	2	須恵器	坏	7D17	II	3/4	口径13.3	器高3.9	底径10.5	灰色 多量の凝灰岩, ϕ 1~2mmの小礫を含む 焼成良好	底部回転ヘラ切り	
	3	須恵器	坏	7D12	II	口縁部のみ1/5	口径13.6	器高3.8		灰色 凝灰岩多く含む		
	4	須恵器	坏	7D6,7D17	II	底部1/3 口縁一部	口径11.7	器高3.7	底径6.1	灰色 凝灰岩 長石		
	5	須恵器	坏	7E12,7F20	II	1/6	口径14.6	器高3.7	底径8	灰色 凝灰岩を含む		
	6	須恵器	有台坏	7E12	II	1/6	口径16	器高4.3	底径11.7	灰色 凝灰岩, 小礫を含む		
	7	須恵器	有台坏	7D16	V	口縁1/6 底部一部	口径14.9	器高3.9	底径10.5			
	8	須恵器	有台坏	7C10	II	底部のみ1/6		器高1.4	底径10	にぶい黄橙色 長石, 凝灰岩を多く含む 焼成不良	内外面ミガキ	転用硯
	9	須恵器	蓋	7F16	II	1/4		器高2.8		灰色 凝灰岩, 長石を含む		自然釉
	10	土師器	椀	7D	II	口縁1/12 底部1/2	口径15	器高4.2				
	11	須恵器	長頸壺	7C15,7D17	II	口縁1/2 頸部1/2	口径20.2	器高13.6		灰色	外面クロナデ 口縁内面自然釉	
	12	土師器	椀	7D15	II	口縁1/6 底部完形	口径13.1	器高4	底径5	にぶい黄橙色 長石, 石英を含む	底部回転糸切り	
	13	土師器	甕	7C20	V	口縁~体部1/12	口径16.8	器高8		にぶい橙色 凝灰岩, 長石, 石英, 小礫を多く含む	外面太巾のカキメの後狭カキメ	
	27	14	土師器	円筒状土製品	7F11	II	下部のみ完形	器高16.55	底径7		にぶい黄橙色 長石, 海面骨針, 石英, 小礫, 金雲母を含む	外面ハケ・ミガキ 内面一部ハケ 外面一部ケズリ
15		土師器	鍋	7C15,7D11	II	口縁1/4 底部1/2 体部1/6	口径30	器高17.9	底径11.9	浅黄橙色 金雲母, 長石, 石英, ϕ 1mmの小礫を多く含む	内外面ハケ	体部外面一部にスス附着
16		土師器	鍋	7C20,7D6,7D11,7D13	II	口縁1/6 体部1/6	口径41.8	器高15.9		にぶい橙色 凝灰岩, 長石, 石英, ϕ 1mm~5mmの礫を多く含む	外面カキメ・ナデ 内面カキメ・ハケ	

神明社裏遺跡 井戸(SE1)部材観察表

図版 番号	図示 番号	遺存	寸法(cm)			樹種	木取	端部加工	挟加工
			長さ	幅	厚さ				
27	17	上部両端欠損	111.3	19.2	2.7	針葉樹	板目	左:片面加工 右:両面加工	下面左右
	18	完形	117.2	17.6	3.0	針葉樹	板目	左:片面加工 右:両面加工	上面左・下面左右
	19	上部両端欠損	114.7	20.4	3.3	針葉樹	板目	左:片面加工 右:両面加工	下面左右
	20	完形	114.8	20.8	3.4	針葉樹	板目	左:両面加工 右:片面加工	上面左右・下面左右
	21	右半欠損	72.7	16.1	1.7	針葉樹	板目	左:片面加工	上面左・下面左
	22	完形	115.3	17.9	3.3	針葉樹	板目	左:両面加工 右:片面加工	上面左右
	23	左半欠損	66.2	12.4	2.2	針葉樹	板目		
	24	完形	115.4	22.4	3.6	針葉樹	板目	左:両面加工 右:片面加工	上面左右・下面左右

城山遺跡 遺構出土遺物観察表(縄文土器)

図版 番号	図示 番号	器種	出土 遺構	出土 層位	遺存	法量(cm)			胎土	成形調整等	備考
30	1	深鉢	SK1	1	小片				にぶい赤褐色 φ1mm以下~2mmの金雲母 その他砂礫がまじる 焼成やや良	沈線	
	2	深鉢	SK4	1	小片				にぶい黄橙色 φ1mm以下の金雲母を多く含む その他砂礫 焼成やや良	沈線+コンパス文+刺突	
	3	深鉢	SK4	1, 4	1/4	口径7.2	器高7.8+		にぶい橙色 φ1mm以下の長石 その他砂礫を多く含む 粒子やや粗	RL縄文+沈線+刺突	内面にスス附着
	4	深鉢	SK7	1	口縁約1/2	口径18.5	器高10.7		外面橙色 内面明褐色 φ1mm以下の金雲母, 長石, その他砂礫を含む 粒子やや粗 焼成やや良	内外面ミガキ RL縄文を磨消+沈線	
	5	深鉢	SK7	1	1/2	口径24.3	器高25.3	底径9.6	橙色 長石, 石英, 金雲母 その他砂礫を多く含む 粒子やや粗 焼成やや不良	LR縄文+沈線	
	6	深鉢	SK7	1	口縁部小片				にぶい黄橙色 φ1~2mmの金雲母, 石英, その他砂礫を含む	LR縄文	
	7	深鉢?	SK7	1	口縁の突起部のみ				にぶい黄橙色		全体にやや楕円形
	8	深鉢	SK7	1	底部1/4				にぶい黄褐色 φ1mm以下の長石, 金雲母, 砂礫を含む 粒子やや粗		
31	12	深鉢	SK8	1	胴部小片				灰黄褐色 φ1mm以下~2mmの金雲母を多く含む その他砂礫	コンパス文+沈線	
	13	鉢	SK8	1	胴部小片				浅黄橙色 φ1~2mmの長石 その他砂礫を多く含む 粒子やや粗 焼成不良	刺突	
	14	深鉢	SK8	1	胴部小片				灰白色 φ1mm前後の長石, その他砂礫を多く含む 焼成やや不良	刺突	
	15	鉢	SK8	1	口縁部小片				橙色 長石, 海綿骨針, その他φ1mm前後の砂礫を含む	平行沈線列	
	16	深鉢	SK8	1	胴部小片				橙色 φ1mm前後の金雲母, 石英, その他砂礫を含む 焼成良好	平行沈線+刺突	

城山遺跡 遺構出土石器観察表

図版番号	図示番号	器種	出土遺構	出土層位	遺存	寸法(cm ただし重量はg)				成形調整	石材	備考
30	9	石錘	SK7	1	完形	最大長7.6	最大幅6.45	最大厚2.70	重量152.4		凝灰岩	
	10	磨製石斧	SK7	1	刃部欠損	最大長13.5	最大幅5.05	最大厚2.59	重量314.8		玄武岩	刃部欠損面に敲打痕あり
	11	磨製石斧	SK7	1	刃部欠損	最大長13.6	最大幅5.10	最大厚2.80	重量252.0	刃部再生研磨	玄武岩	

城山遺跡 遺構外出土遺物観察表(縄文土器)

図版番号	図示番号	器種	出土位置	出土層位	遺存	法量(cm)	胎土	成形調整等	備考
31	17	深鉢	5B12	IV	胴部小片		明黄褐色 φ1mm前後の金雲母, その他砂礫を含む	コンパス文+沈線	
	18	深鉢	3B10	IV	胴部小片		橙色 φ1mm前後の石英, 長石, その他砂礫を含む		
	19	深鉢	5B3	IV	胴部小片		浅黄色 φ1mm前後の砂礫まじる	櫛歯沈線+円形刺突	
	20	深鉢	5B3	IV	胴部小片		灰黄色 φ1mm前後の砂礫まじる	櫛歯沈線	
	21	深鉢	6B7	IV	口縁部小片		橙色 φ1mm前後の金雲母, 海面骨針, その他砂礫を多く含む 粒子やや粗 焼成やや不良	左上から右下に沈線	
	22	土製円盤	5B20	IV	完形		浅黄色 φ1mm前後の金雲母, その他砂礫を多く含む 粒子やや粗	RL縄文	深鉢胴部片を転用
	23	深鉢	5B13	IV	口縁部小片		灰黄色 φ1mm以下の黒雲母, 長石を含む	RL縄文+沈線	内面にスス付着
	24	深鉢	3B20	IV	胴部小片		褐灰色 φ1mm以下の黒雲母, 石英, 長石その他砂礫を多く含む 粒子やや粗	RL縄文磨消+沈線	
	25	深鉢	3B10	IV	口縁部小片		浅黄色 φ1~3mmの金雲母, 長石, その他砂礫を多く含む 粒子やや粗 焼成やや不良		
	26	深鉢	5B9	IV	口縁部小片		橙色 φ1mm前後の金雲母を多く含む, 長石, 海綿骨針, 砂礫を含む 粒子やや粗	沈線による渦巻文	
	27	深鉢	5B19	IV	胴部小片		橙色 φ1mm以下の長石, 金雲母, その他の砂礫を含む 粒子やや密		
	28	深鉢	5B4	IV	底部1/2	底径4.9	灰黄色 φ1mm大の金雲母, 黒雲母, 長石その他砂礫を含む 焼成良好	外面ミガキ 底面にササの葉圧痕	

城山遺跡 遺構外出土遺物観察表(中世陶器)

図版番号	図示番号	種別・器種	出土位置	出土層位	遺存	胎土	備考
31	29	珠洲焼甕	6B1	II	体部小片	青灰色 φ1mm以下の長石, 海面骨針, φ2~3mm程度の凝灰岩を含む 粒子緻密 焼成良好	
	30	珠洲焼甕	5B14	II	体部小片	青灰色 φ1mm以下の長石, 海面骨針, φ1~2mm程度の凝灰岩を含む 粒子緻密 焼成良好	
	31	珠洲焼甕	5B	II	体部小片	青灰色 φ1mm以下の長石, 海面骨針, φ1~2mm程度の凝灰岩を含む 焼成良好	

報告書抄録

ふりがな	ささやままえいせき・しんめいしゃうらいせき・じょうやまいせき							
書名	笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡							
副書名	県営圃場整備事業（先進技術導入モデル事業 亀田郷地区）に伴う平成7年度・平成8年度発掘調査報告書							
編著者名	廣野耕造							
編集機関	新潟市教育委員会生涯学習部 埋蔵文化財センター							
所在地	〒950-3101 新潟県新潟市太郎代 2554 番地 電話・FAX 025-255-2006							
発行年月日	平成9（1997）年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ささやままえいせき 笹山前遺跡	にいがたしくらおかあざ 新潟市蔵岡字 ささやままえ 笹山前	15201	7	37度 52分 35秒	139度9 分14秒	19951211～ 19960301 19960617～ 19961127	770 m ² 1,840 m ²	県営圃場整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項
笹山前遺跡	遺物包含地	縄文時代	石錘集積 遺構1	縄文土器（前期～晩期），石器（石鏃，石匙， 尖頭器，石錘，小形磨製石斧），石製品（石 製装飾品）				
		弥生時代		弥生土器（天王山式）				
		古墳時代	竪穴住居 1，掘立柱 建物3，墓 坑1	須恵器（坏蓋），土師器（甕，壺，椀，高坏， 器台）				
		奈良・平 安時代	井戸3，掘 立柱建物1	須恵器（有台・無台坏，甕），土師器（椀）				
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号							
しんめいしゃうら いせき 神明社裏 遺跡	にいがたしくらおかあざ 新潟市笹山前 あざみやうら 字宮浦	15201	19	37度 52分 42秒	139度9 分14秒	19960304～ 19960322	275 m ²	県営圃場整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項
神明社裏遺 跡	遺物包含地	奈良・平 安時代	井戸1，土 坑多数	須恵器（有台・無台坏，坏蓋，長頸瓶），土 師器（椀，小形甕，鍋），円筒状土製品，井 戸枠部材				
		中世	土坑	珠洲焼（搗鉢）				
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
市町村	遺跡番号							
じょうやまいせき 城山遺跡	にいがたしくらおかあざ 新潟市蔵岡字 じょうやま 城山	15201	28	37度 52分 48秒	139度9 分23秒	19960516～ 19960614	350 m ²	県営圃場整備 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項
城山遺跡	遺物包含地	縄文時代	土坑8，ピ ット	縄文土器（前期～後期），石器（石錘，磨製 石斧）				
		中世		珠洲焼（甕，壺）				

笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡

県営圃場整備事業（先進技術導入モデル事業 亀田郷地区）に伴う
平成7年度・平成8年度発掘調査報告書

発行日 平成9（1997）年3月31日
発行 新潟市教育委員会
〒951 新潟市学校町通1番町602番地1
電話（025）228-1000
印刷（有）太陽印刷所
〒951 新潟市和合町2丁目4番18号
電話（025）265-3101

正誤表 (笹山前・神明社裏遺跡・城山遺跡)

		誤	正
2頁	36行目	(遺構:図5・6	(遺構:図5~7
3頁	9行目	図13-32は大洞B2式の壺	図14-32は大洞A2式の壺
3頁	15行目	遺物:図15~17・20)	遺物:図15~17・21)
3頁	18行目	(図20-58~88)	(図21-58~88)
3頁	24行目	(図20-46~57)	(図21-46~57)
3頁	27行目	(図18-1)	(図18-50~52)
3頁	29行目	(図21)	(図21-95~98)
4頁	4行目	図25-14は	図27-14は
4頁	22行目	諸磯c式	諸磯a式
7-8頁	上	V層上面までの遺構	IV層上面までの遺構
10頁	SK115-下	標高1.80m	1.30m
11頁	SK126	標高欠落	1.80m
15頁	SE1-左下	標高1.20m	2.20m
15頁	SE1-右上	標高1.00m	2.40m
15頁	SE1-右下	標高1.00m	2.40m
31頁		図31 城山遺跡遺構外出土遺物	図31 城山遺跡遺構出土遺物及び遺構外出土遺物